

## 2026年度グローバル人材育成プログラム科目一覧

科目群	科目名	担当者	開講キャンパス	開講期	曜日	時限	単位数	配当年次	備考	
<b>異文化理解・国際協働科目群</b>										
Meiji Active Global Intercultural Collaborative Learning (MAGIC-L)	日本社会・文化理解講座	仲谷 ちはる	和泉/メディア授業科目 ※ハイブリッド科目	秋	火	4	2	1~4	・メディア授業併設 ・WEB履修登録対象	
	明治大学アセアンセンター講座	タンシントンチャイ, ウィライラック	メディア授業科目	春	木	5	2	1~4	・メディア授業 ・WEB履修登録対象 ・履修定員：春秋各15名 ・履修希望者が定員を超えた場合、初回授業内での課題の結果により履修者を決定。 ・初回授業出席必須	
			メディア授業科目	秋	木	5				
			三牧 純子	和泉	春	火	2	2	1~4	・副題：ウェルビーイング ・WEB履修登録対象外 ・履修定員：15名（正規生） ・履修者が定員を超えた場合、初回授業内で履修者を決定。 ・初回授業出席必須 ・授業内で宿泊を伴うフィールドワークを実施
			山森 理恵	和泉	春	火	4	2	1~4	・副題：社会の課題を考える ・WEB履修登録対象外 ・履修定員：15名（正規生） ・履修者が定員を超えた場合、初回授業内で履修者を決定。 ・初回授業出席必須
			仲谷 ちはる	和泉	春	水	4	2	1~4	・副題：国際交流を通して異文化共生社会を考える ・WEB履修登録対象外 ・履修定員：15名（正規生） ・履修者が定員を超えた場合、初回授業内で履修者を決定。 ・初回授業出席必須
			ビニロス マツダ, デレク	中野	春	木	2	2	1~4	・副題：Soft Skills as Learnable Practices in Multicultural Learning Environments ・WEB履修登録対象外 ・履修定員：15名（正規生） ・履修者が定員を超えた場合、初回授業内で履修者を決定。 ・初回授業出席必須
			古内 綾子	和泉	秋	火	4	2	1~4	・副題：これからの社会で生きていくために必要なスキルとは何だろう ・WEB履修登録対象外 ・履修定員：15名（正規生） ・履修者が定員を超えた場合、初回授業内で履修者を決定。 ・初回授業出席必須
			黒崎 典子	駿河台	秋	水	2	2	1~4	・副題：多文化理解のための協働プロジェクト ・WEB履修登録対象外 ・履修定員：15名（正規生） ・履修者が定員を超えた場合、初回授業内で履修者を決定。 ・初回授業出席必須 ・授業内で宿泊を伴うフィールドワークを実施
			横川 綾子	和泉	秋	水	5	2	1~4	・副題：Bridging Languages: Exploring Multilingual Minds in Context ・WEB履修登録対象外 ・履修定員：15名（正規生） ・履修者が定員を超えた場合、初回授業内で履修者を決定。 ・初回授業出席必須
			高馬 京子	駿河台	秋	金	3	2	1~4	・副題：The Gaps between the Image and Reality of "Japan" Constructed by Media from various countries around the world ・WEB履修登録対象外 ・履修定員：15名（正規生） ・履修者が定員を超えた場合、初回授業内で履修者を決定。 ・初回授業出席必須 ・授業内で宿泊を伴うフィールドワークを実施
	グローバル・シティズンシップ入門B	三牧 純子	メディア授業科目	春	木	4	2	1~4	・メディア授業 ・WEB履修登録対象	
	グローバル・シティズンシップ入門C	水谷 尚子	メディア授業科目	秋	月	4	2	1~4	・メディア授業 ・WEB履修登録対象	
グローバル・シティズンシップ入門D	三牧 純子	メディア授業科目	秋	木	4	2	1~4	・メディア授業 ・WEB履修登録対象		
<b>留学準備科目群</b>										
	留学のススメ	仲谷 ちはる	和泉/メディア授業科目 ※ハイブリッド科目	春	火	4	2	1~4	・メディア授業併設 ・WEB履修登録対象	
	アカデミック英語集中講座（留学前）	横川 綾子	和泉	春集中	水	4~5	1	1~4	・春学期前半集中開講科目（日程はシラバスにてご確認ください） ・WEB履修登録対象	
<b>海外留学科目群</b>										
	海外テーマ特化型研修	国際教育センター長	—	夏季・春季集中授業			2	1~4	・各プログラム参加が決定したのち、事務室で履修登録を行う（WEB履修登録対象外）。 ・成績公開時期が通常と異なるため、各プログラム内での案内を参照すること。	
	海外語学研修	国際教育センター長	—	夏季・春季集中授業			2	1~4	・各プログラム参加が決定したのち、事務室で履修登録を行う（WEB履修登録対象外）。 ・成績公開時期が通常と異なるため、各プログラム内での案内を参照すること。	
<b>実習科目群</b>										
	海外実習	国際教育センター長	—	夏季・春季集中授業			2	1~4	・各プログラム参加が決定したのち、事務室で履修登録を行う（WEB履修登録対象外）。 ・成績公開時期が通常と異なるため、各プログラム内での案内を参照すること。	
	長期海外実習	三牧 純子	—	秋			8	2~4	・国連ユースボランティア・プログラム ・長期海外実習と海外実習課題研究は同時履修が必要 ・各プログラム参加が決定したのち、事務室で履修登録を行う（WEB履修登録対象外）。 ・履修する場合、当該学期に他の科目の履修は不可	
	海外実習課題研究	三牧 純子	—	秋			4	2~4	・国連ユースボランティア・プログラム ・長期海外実習と海外実習課題研究は同時履修が必要 ・各プログラム参加が決定したのち、事務室で履修登録を行う（WEB履修登録対象外）。 ・履修する場合、当該学期に他の科目の履修は不可	
<b>留学後科目群</b>										
	アカデミック英語集中講座（留学後）	横川 綾子	駿河台	春集中	水	4~5	1	2~4	・春学期後半集中開講科目（日程はシラバスにてご確認ください） ・WEB履修登録対象	

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
日本社会・文化理解講座 日本社会・文化理解講座 [M]	1～4年	秋・火・4	2単位	和泉	仲谷 ちはる
授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)					
<p>《概要 (Course Summary)》</p> <p>本講義は、全 14 回のうちゲスト講師によるオムニバス形式を 10 回、担当教員による講義を 4 回行う。</p> <p>海外留学に際し、改めて広く日本について考え、理解するための講座である。日本のことを英語や留学先の言語で上手く説明できないことは、語学力の問題だけではなく、日本文化や日本社会についてきちんと理解していないことが原因の場合もある。</p> <p>ゲスト講師による講義では、国内外で活躍する講演者たちが自身の専門分野をもとに、日本文化や日本事情について講演し、受講者の日本の社会や文化に関する知識を深めることを目的とする。</p> <p>担当教員による講義では、ゲスト講師による講義について振り返り、同じ講義を受けた学生同士が対話やディスカッションを通してお互いの考えを共有し、その相違について自身の考えを深めたり広げたりする。</p> <p>《到達目標 (Course Objectives)》</p> <p>本講座では、日本の文化を、言語、伝統芸能、宗教、政治、経済等の様々なテーマから扱い、留学や国際交流の場面で、日本について海外に発信できるための知識を得ることを目指す。</p>					
授業内容(Course Contents)					
1.	9/22	イントロダクション 日本社会・文化を学ぶ意義	仲谷 ちはる (明治大学国際連携機構特任講師)		
2.	9/29	英語で説明するニッポン ～日本の未来を考えよう	安河内 哲也 (東進ハイスクール英語講師兼一般財団法人 実用英語推進機構代表理事)		
3.	10/6	個性的であれ！寅さん人生も悪くない	川崎 つぶら (特定非営利活動法人日本川崎病研究センター職員)		
4.	10/13	異文化の中で生き抜く力とは	中村 八千代 (特定非営利活動法人ユニカセ・ジャパン理事長)		
5.	10/20	第 2～4 回振り返り及び自文化理解	仲谷 ちはる		
6.	10/27	「常識」とはなんでしょうか？ 日常の生活や周囲との交流における「常識」を見つめ直して、新しい「常識」ニューノーマルを考えましょう！	オースティン・オーガー (APTIM 代表取締役)		
7.	11/10	ノーマライゼーションの視点で考える日本社会～特別支援教育とアメリカでの経験から	山崎千春 (Hello Kids 主宰)		
8.	11/17	日本のなかの言語多様性～日本の言語＝日本語、外国語＝英語でいいの？ [メディア授業 (オンデマンド型)]	橘 広司 (金城学院大学教授)		
9.	11/24	文化の相対化とは ～日本の社会と文化をより深く理解するために	拝田 清 (和洋女子大学教授)		
10.	12/1	第 6～9 回振り返り及び日本における安全対策と危機管理	仲谷 ちはる		
11.	12/8	国際派落語家が語るオンライン時代のコミュニケーション	三遊亭 竜楽 (落語家)		
12.	12/15	社会とことば～日本語教育の視点から	二瓶 知子 (明治大学文学部兼任講師)		

13.	1/12	太神楽とは何か～おめでたいを世界へ	鏡味 味千代（太神楽師）
14.	1/19	第 11～13 回振り返り及びまとめ	仲谷 ちはる
<b>履修上の注意（Prerequisites and Registration Requirements）</b>			
<p>毎回の講義出席の確認方法は、初回の授業で説明する。</p> <p>また、授業中はディスカッションを通じて意見交換するが、授業時間外は Oh-o! Meiji やメールなどで意見交換や情報提供を行う。</p> <p><b>原則、和泉キャンパスでの対面受講とする</b>所属キャンパスが和泉以外である等のやむを得ない事情の場合は、オンライン受講も認める。この科目はメディア授業併設科目として開講される。以下のいずれかの方法で履修登録を行うこと。学期途中での変更（対面からオンラインまたはオンラインから対面）は、いずれも認めない。以下は履修上の注意。</p> <p><b>【対面での受講を希望する場合】</b></p> <p>和泉キャンパス開講の講義を履修登録し、指定の教室で授業に参加すること。</p> <p>ただし、第 8 回はメディア授業（オンデマンド型）で実施する。</p> <p><b>【オンラインでの受講を希望する場合】</b></p> <p>メディア授業科目として開講される講義を履修登録すること。</p> <p>第 8 回を除くすべての授業回を、メディア授業（リアルタイム型）で実施する。</p> <p>受講場所を問わないが、<b>視聴端末及び安定した通信環境等を各自で準備すること</b>。なお、メディア授業科目により修得する単位は、卒業要件として修得すべき単位数のうち、60 単位を超えないものとされており、本科目は 60 単位の制限に含まれる。</p> <p>ペアワーク・グループワークでのディスカッションや発表を行う場合には、原則、Zoom のカメラをオンにすること。</p>			
<b>準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</b>			
<p>授業の予習として、毎回事前に配布する講義資料を熟読し、関連ニュース等を調べておくこと。</p> <p>授業では、学生同士の積極的な議論や教員との質疑応答を期待するので、授業で扱う各種テーマに対する自分自身の意見や考えを整理しておくこと。</p> <p>授業の復習として、各回の講義内容や討論をもとにした振り返りのレポート（リアクションペーパー）を毎週作成すること。また、自身のノート等を見返し理解を深めること。</p>			
<b>教科書（Textbook）</b>			
特に定めないが、参考書を読むことを推奨する。			
<b>参考書（Reference）</b>			
<p>『日本人が世界に誇れる 33 のこと』（2012）ジャーマン・ルース・マリー 著（あさ出版）</p> <p>『グーグル、ディズニーよりも働きたい「教室」』（2013）松田悠介 著（ダイヤモンド社）</p> <p>『信じる！伝える！実現する！』（2015）齋藤佳子 著（宝島社）</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』（2015）ジャーマン・ルース・マリー 著（あさ出版）</p> <p>『異文化理解力』（2015）エリン・メイヤー 著（英治出版）</p> <p>『30 秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』（2016）安河内哲也 監修（IBC パブリッシング）</p> <p>『30 秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』（2016）安河内哲也 監修（IBC パブリッシング）</p> <p>『日本人がいつまでも誇りにしたい 39 のこと』（2018）ジャーマン・ルース・マリー 著（あさ出版）</p>			
<b>課題に対するフィードバックの方法（How to provide Feedback to assignments）</b>			
<p>毎回のリアクションペーパーの講評は、ゲスト講師へ共有し、フィードバックコメントが届き次第、Oh-o! Meiji より公開・通知する。</p> <p>最終講義日に期末レポートについて説明し、個別の講評は Oh-o! Meiji より公開・通知する。</p>			

## 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

以下の諸点により、最終評価を行う。

(1) 授業における貢献度：30%

※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。

(2) リアクションペーパー：30%

※授業内容や討論をもとにした振り返りのレポートを毎週作成すること。

(3) 期末レポート：40%

※本講座で学んだことをもとに、レポートをまとめること。

※対面式での試験は行わない。

## その他 (Other)

教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。

本講座とあわせて、「留学のススメ」(春学期 火曜日4限)を履修することを強く勧める。

他人のレポートやオンライン上の情報をそのままコピーして提出しないこと。また、病気やその他のやむを得ない事由により、授業当日に課題の提出ができない場合、事前に受け付ける。

外部講師により、対面型ではなく、オンデマンド型やリアルタイム型で動画配信を行う授業日については、受講方法を別途 Oh-o! Meiji にてお知らせを配信する。

明治大学 (国際教育センター) が企画する海外留学に関するイベント ([https://www.meiji.ac.jp/cip/event\\_schedule/event\\_schedule.html](https://www.meiji.ac.jp/cip/event_schedule/event_schedule.html)) や、留学のための各種相談 (<https://www.meiji.ac.jp/cip/preparation/counseling/counseling.html>) の利用を強く勧める。また、学内外の国際交流や留学に関する情報収集を積極的に行うこと。

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
明治大学 アセアンセンター講座 [M]	1～4年	春・木・5 秋・木・5	2単位	メディア授業 科目	タンシトロンチャイ, ウイライラック

#### 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

いまや日本では、業種業態を問わずアジアとの関係が緊密になり、その重要性は今後ますます高まると考えられる。特にタイは、日系企業が多数進出していることにも見られるとおり、日本とアジアを結ぶ重要な要の国である。こうした状況の下、ビジネスパーソン、製品開発者、建築家、NGO、公務員など多くの実務分野において、現地の言語や文化に通じ、日本とアジアの架け橋として活躍できる人材が求められている。

本講座は、そうした日本とアジアの架け橋たる実務型リーダーとして将来活躍することを目指し、特にタイの言語と文化について基礎的理解を身に付けることを目標にするものである。各回の講義では、タイ特有の文化及び社会を講義し、その文化や社会の背景に基づくコミュニケーション方法を紹介するとともに、関連するアセアン諸国の文化や社会も紹介する。また本講座で得た知識や情報などを自国の言語や文化と比較して類似点や相違点を考えることで理解を深める。

本講座の目標は、タイ語会話の基礎知識やタイの文化・社会に基づくコミュニケーション方法を身につけることにある。本講座終了時には、履修者は、上述3つの基本とタイ語の基本的な文法を身につけると同時に、基本的な挨拶・自己紹介ができるようになり、また、時間、モノの位置関係を示したり、意見・感情、経験、願望などを表したりできることが期待されている。

#### 授業内容(Course Contents)

1.	イントロダクション、タイ及びタイ語の概要 [メディア授業 (リアルタイム型)]
2.	あいさつから見たタイ文化、アセアン諸国の紹介 [メディア授業 (リアルタイム型)]
3.	タイ人の自己紹介 [メディア授業 (リアルタイム型)]
4.	タイ人の方向感覚 [メディア授業 (リアルタイム型)]
5.	タイ人と日本人の意見・感情の表現 [メディア授業 (リアルタイム型)]
6.	まとめ、異文化理解の観点からタイやアセアンを見るセクション [メディア授業 (リアルタイム型)]
7.	タイ人のコミュニケーション方法 [メディア授業 (リアルタイム型)]
8.	タイおよびアセアン諸国の食文化 [メディア授業 (リアルタイム型)] [メディア授業 (リアルタイム型)]
9.	タイの外食文化 [メディア授業 (リアルタイム型)]
10.	タイ人の時間の表現 [メディア授業 (リアルタイム型)]
11.	まとめ、異文化理解の観点からタイ社会と生活を見るセクション [メディア授業 (リアルタイム型)]
12.	タイ人の経験・願望の表現 [メディア授業 (リアルタイム型)]
13.	タイ文字 [メディア授業 (リアルタイム型)]
14.	a: 総まとめ、b: プレゼンテーション [メディア授業 (リアルタイム型)]

#### 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)

本講義は、タイにおいて日本語で行われる授業を配信するオンライン科目である (リアルタイム配信型のオンライン授業)。初心者でも受講できるが、タイ交流プログラムや交換留学生希望者等は積極的に参加してもらいたい。

リアルタイム配信型のオンライン授業として実施するため、キャンパス内の自習室および自宅から受講が可能である。受講にあたっては、視聴端末は各自で準備すること。なお、毎回の講義の際に、学生参加型のインタラクティブなディスカッションや質疑応答のコーナーを設け出席確認及び理解度確認を行う。また、授業中はZoomカメラオンでのディスカッションを通じて意見交換を行う。

また、タイとの遠隔授業となるため、履修定員を15名とする。履修希望者が定員を超えた場合は、初回授業

に実施予定の課題（ショートエッセイ）の内容により、選抜を行う。履修希望者は必ず初回授業に参加すること。

#### 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）

事前に Oh-o! Meiji クラスウェブにアップロードされた資料、特に語彙の部分を予習し、授業後には学習した語彙、表現、構文などを復習しながら語彙整理表に書いて確認しておくこと。発音及び会話の練習もしておくことと表現力が自然に身につく。

また、授業中に紹介・指摘される日タイにおける文化的・言語的な共通点及び相違点について、配布資料や参考書を参照し、復習することで、日本とタイのみならず、グローバルな観点・視野も広げてもらいたい。

#### 教科書（Textbook）

特に定めない（講師によるプリントや資料を配布予定）。

#### 参考書（Reference）

『タイを知るための 60 章 エリア・スタディーズ』綾部恒雄、林行夫 著（明石書店）

『東南アジアを知るための 50 章 エリア・スタディーズ』今井昭夫 編集代表（明石書店）

『デイリー日タイ英・タイ日英辞典』宇戸清治 監修（三省堂）

『今すぐ話せるタイ語 入門編』水野潔 著（東進ブックス）

#### 課題に対するフィードバックの方法（How to provide Feedback to assignments）

提出課題やレポートに対して Oh-o! Meiji でコメント・フィードバックをするとともに、講義の際にも、質疑応答および解説のコーナーを設け、フィードバックしたことについて学生参加型のインタラクティブなディスカッションや意見交換を行い理解度を確認する。授業時間外は Oh-o! Meiji やメールなどで情報提供を行うこともある。

#### 成績評価の方法（Grading and Evaluation）

- ・ 平常点 25% （クラス活動 10%、勉学態度 5%、表現力 10%）
- ・ 課題 20%
- ・ 中間レポート 25%
- ・ 最終レポート 30%

※対面形式での試験は行わない。

#### その他（Other）

本講義の受講をきっかけにタイないし東南アジアへの関心を高め、在学中に同地域へ留学するなどして、卒業後には日本とアジアを結ぶ実務型リーダーとして活躍することを目指してもらいたい。

メディア授業科目により修得する単位は、卒業要件として修得すべき単位数のうち 60 単位を超えないものとされており、本科目は 60 単位の制限に含まれる。

なお、授業時間外は Oh-o! Meiji やメールなどで意見交換や情報提供を行う。提出課題を通じてコメントや意見を交換することもある。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
Meiji Active Global Intercultural Collaborative Learning (MAGIC-L)	1～4年	春・火・2	2単位	和泉	三牧 純子

#### 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

##### 【テーマ：ウェルビーイング】

「最近、なんとなく調子がいい」「チームで動くのが楽しい」。そんな状態を偶然ではなく、自らの手で作り出せるとしたらどうでしょうか？

本講義は、世界的に注目される「ウェルビーイング（心身ともに満たされた状態）」を、理論と実践の両面から学びます。

自分の強みや自分にあったウェルビーイングを高める方法を見つけ、また、他者の強みを理解することにより、多様な背景を持つ人々と円滑に協働する力を育成します。

##### 《授業の概要》

「ウェルビーイング」とは何でしょうか。

世界保健機関（WHO）は、ウェルビーイングを「個人や社会のよい状態」と定義しています。そして、これは健康と同じように日常生活の大事な要素であり、社会・経済・環境できまるもの、とされ、近年世界的な注目を集めている概念です。

この講義では、まず、個人レベルのウェルビーイングに注目し、自分自身のウェルビーイングについて理解します。そして、コミュニティ（グループ）レベルのウェルビーイングを理解し、自分や仲間の強みの活かし方について理論やグループワークを交えながら理解します。

そして、社会におけるウェルビーイングについて理解するために、「ウェルビーイングなまちづくり」を進めている自治体を訪問し、合宿（1泊2日）でフィールドワークを行います。さらに、世界を舞台に戦うトップアスリートから、困難を乗り越えるメンタリティや強みの活かし方を学びます。

こうした活動を通じて、自分にあったウェルビーイングを高める方法を見つけ、将来国際的な場で活躍するために必要な協働力を育成します。

##### 《到達目標》

- ・ **ウェルビーイング理解**：ウェルビーイングの基本的な考え方を理解する。
- ・ **強みの言語化**：自分の特性（強み）を理解し、それを日常生活やキャリア形成への具体的な活かし方を見つける。
- ・ **実践的スキルの習得**：異なる背景を持つ仲間との学び合いを通じて、異文化理解を深め、将来国際的な場で活躍するために必要な協働スキルを身に付ける。

##### 【背景：なぜ今ウェルビーイングなのか】

2015年の国連総会で採択された持続可能な開発目標（SDGs）の宣言文に、「身体的・精神的・社会的にウェルビーイングな社会を目指すこと」が盛り込まれています。それ以降、産業界や政策レベルなど、様々な場面でウェルビーイングの考え方が取り上げられるようになっていきます。

今後国際社会の一員として、ウェルビーイングの概念を理解するだけでなく、個人レベル、組織レベルそして社会レベルでウェルビーイングを高めるための実際の行動を取ることが、ますます重要になっています。

#### 授業内容(Course Contents)

1.	4/14 イン트로ダクション
2.	4/21 自身の強みとは
3.	4/28 仲間の強みを理解し活かしあうには

4.	5/12 ウェルビーイングの理論とは
5.	5/19 フィールドワーク準備
6.	5/23 フィールドワーク（1）埼玉県横瀬町の取組を理解する ※合宿内で実施、ゲストスピーカーによる講演も予定
7.	5/24 フィールドワーク（2）埼玉県横瀬町の方へのインタビュー ※合宿内で実施
8.	6/2 フィールドワークのまとめ・発表
9.	6/9 ケーススタディ「世界を舞台に戦うトップアスリートから、困難を乗り越えるメンタリティや強みの活かし方を学ぶ（仮題）」 山口遼河氏（東京 2020 パラリンピック・ゴールボール日本代表/関彰商事株式会社）
10.	6/16 グループワーク（1）身近なウェルビーイングについてディスカッション
11.	6/23 グループワーク（2）身近なウェルビーイングを調査する
12.	6/30 グループワーク（3）調査結果をまとめる
13.	7/7 グループワーク発表
14.	7/14 まとめ

#### 履修上の注意 (Prerequisites and Registration Requirements)

- ・履修登録：
  - ①履修を希望する場合、初回授業に必ず参加する必要があります。
  - ②履修希望者数により履修者の選定を行う可能性があります。
  - ③履修決定後の履修削除は認めていません。
- ・本講義の言語：
 

日本語をメインに使用します。日本語上級者または日本語レベル6以上であることを履修条件とします。授業中および他の履修者とのやり取りにおいて、積極的なコミュニケーションが求められます。
- ・フィールドワーク（合宿）の概要：
 

（詳細については、改めて講義内で説明します）。

概 要：ウェルビーイングタウンとして知られる埼玉県横瀬町で、ウェルビーイングをテーマとしてフィールドワークを行います。

合宿内で授業を実施し、出席を取ります（単位取得上、参加は必須）。

※合宿の参加を前提に履修登録を行ってください。

場 所：埼玉県横瀬町（現地集合・解散）

日 程：2026年5月23日（土）～24日（日）1泊2日

経 費：電車運賃は新宿を起点とした場合  
（新宿→(JR)→池袋→(西武)→横瀬）片道 931円（2026年1月末現在）  
宿泊費は夕食と朝食込みで税込み 9,900円を想定しています。  
（経費は事前に徴収予定です。なお、5月18日（月）以降のキャンセルについては、いかなる理由があってもキャンセル料（宿泊先が外部業者に発注する食事代 4,400円(税込み)）がかかりますのでご注意ください。

その他：宿泊部屋は男女別です。  
各部屋4名程度の相部屋となります。お風呂やお手洗いも共同です（男女別）。  
くじ引きで部屋を決定します。
- ・書籍の購入：

『さあ、才能(じぶん)に目覚めよう 最新版 ストレングス・ファインダー2.0』(日本経済新聞社)を各自で購入し、第2回目の講義の際に持参ください(書籍に付属のアクセスコードを使用するため、新品(2,420円 2026年1月末現在)を購入してください)。
<b>準備学習(予習・復習等)の内容(Preparation and Review)</b>
講義内で参考資料を提示し、事前確認を課す場合があります。
<b>教科書(Textbook)</b>
『さあ、才能(じぶん)に目覚めよう 最新版 ストレングス・ファインダー2.0』クリフトン, ジム・ギャラップ著、古屋博子訳(日本経済新聞社)
<b>参考書(Reference)</b>
『幸せのメカニズム 実践・幸福学入門』前野隆司(講談社)
<b>課題に対するフィードバックの方法(How to provide Feedback to assignments)</b>
中間レポートについて講義の中で全体講評を行います。 最終レポートについて個別に講評を行います。
<b>成績評価の方法(Grading and Evaluation)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義への参画度 40%</li> <li>・ 中間レポート 25%</li> <li>・ 期末レポート 35%</li> </ul> ※対面での試験はありません。
<b>その他(Other)</b>
特になし。

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
Meiji Active Global Intercultural Collaborative Learning (MAGIC-L)	1～4年	春・火・4	2単位	和泉	山森 理恵

#### 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

##### 《概要 (Course Summary)》

テーマ：社会の課題を考える。

異なる人々が共に生きるうえでの日本や世界におけるさまざまな社会課題について考え、調べて、さまざまな人の意見を聞き、解決方法や自分たちにできることを考える授業です。

ミニ発表では、グループでかんたんな発表を行います。

プロジェクトワークでは、グループで社会課題を一つ選び、ビデオを作成します。見る人がその問題を理解し、どのような意見があるか知り、解決方法や自分たちにできることを考えるためのビデオです。

##### 《到達目標》

- 異なる人々が共に生きるうえでの社会の課題について、情報を収集、分析し、わかりやすく説明することができる。
- 異なる人々が共に生きるうえでの社会の課題について、課題を理解して意見を述べたり、解決する方法や自らできることについて提案したりすることができる。
- クラスメイトと十分なコミュニケーションをとり、異なる文化背景の他者を理解し、受け入れ、尊重して接することができる。
- グループワークがうまく進むように役割を果たし、働きかけを行い、必要な行動をとることができる。

#### 授業内容(Course Contents)

1. イントロダクション、互いを知る
2. トピック①「マジョリティとマイノリティ」・ディスカッション
3. トピック②「世界がもし100人の村だったら」・ディスカッション
4. ワールドカフェ方式によるディスカッション、ミニ発表説明・準備
5. ミニ発表準備、プロジェクトワーク説明
6. ミニ発表準備、プロジェクトワーク①テーマの検討
7. ミニ発表・ディスカッション、プロジェクトワーク②テーマ決定
8. ミニ発表・ディスカッション、プロジェクトワーク③テーマについて取材/資料収集
9. ミニ発表・ディスカッション、プロジェクトワーク④アウトライン作成
10. ミニ発表・ディスカッション、プロジェクトワーク⑤スクリプト作成
11. ミニ発表・ディスカッション、プロジェクトワーク⑥ビデオ収録
12. ミニ発表・ディスカッション、プロジェクトワーク⑦ビデオ編集
13. プロジェクトワークビデオ上映会・ディスカッション
14. プロジェクトワークビデオ上映会・ディスカッション、振り返りとまとめ

#### 履修上の注意 (Prerequisites and Registration Requirements)

- ・本科目は履修希望者数により履修者の選定を行う可能性があります。選定は、初回授業出席者を対象に行いますので、本科目の履修を希望する場合は必ず初回授業時に出席してください。なお、履修決定後の履修削除は認めていません。
- ・授業は日本語で行います。留学生は中級レベル (JLPT N2-N3 レベル、CEFR B1 レベル、留学生共通日本語科目日本語6 レベル) 以上の日本語力を有することが望ましいです。
- ・毎回、グループワークを行います。グループワークに積極的に参加し、発言することが求められます。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニ発表、プロジェクトワークはグループで行います。必要に応じて、グループで授業時間外に準備を進めることが求められます。</li> <li>・グループ活動への貢献、ほぼ毎回コメントシートの提出が求められます。</li> </ul>
<b>準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</b>
<p>事前学習：次回資料を事前に読む、トピックや発表、プロジェクトワークのために調べる、グループで相談しながらミニ発表・プロジェクトワークの準備を行う</p> <p>事後学習：授業内容について振り返る、コメントシートを記入する、グループで相談しながらミニ発表やプロジェクトワークを進める</p>
<b>教科書（Textbook）</b>
教科書は使用せず、Oh-o! Meiji 等で配布する資料を使用します。
<b>参考書（Reference）</b>
授業時に紹介します。
<b>課題に対するフィードバックの方法（How to provide Feedback to assignments）</b>
Oh-o! Meiji 等を用いて提出物に対してフィードバックを実施します。
<b>成績評価の方法（Grading and Evaluation）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出物（毎回のコメント提出、期末の振り返りなど） 40%</li> <li>・ミニ発表 15%</li> <li>・プロジェクトワーク 35%</li> <li>・平常点（クラス参加度） 10%</li> </ul>
<b>その他（Other）</b>
<p>授業のスケジュールおよび内容は、履修学生の人数、興味関心などにより変わることがあります。</p> <p>授業に関わる活動における生成 AI などの利用方法については、授業内の指示に従ってください。</p>

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
Meiji Active Global Intercultural Collaborative Learning (MAGIC-L)	1～4年	春・水・4	2単位	和泉キャンパス	仲谷 ちはる
授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)					
<p>《概要 (Course Summary)》</p> <p>テーマ：国際交流を通じた異文化共生の重要性を理解し、異文化コミュニケーションの知識を自分の普段の生活の中に生かし、学習者が主体的に学びを深める。</p> <p>本授業では、国際交流のために必要な異文化コミュニケーションの基礎知識について学ぶとともに、グループワーク・ペアワークを通して教室内での異文化交流を実践する。異なる言語・文化背景を持つクラスメイトとの対話や協働は、自分とは異なる考え方や価値観に触れるため、時に衝突や内省を体験することになる。これらの体験をクラス全体の学びにつなげ、ひとりひとりが主体的に学び、考え、行動できることを目指す。</p> <p>プレゼンテーションでは、国際交流を通じた異文化共生社会の構築に向けた現代的な課題から選定し、グループで解決策を考え提案する。</p> <p>《到達目標 (Course Objectives)》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「異文化理解」は「他者理解」であることの説明ができる。</li> <li>多角的な視点で学生生活や日常生活を見直すことにより、自らの価値観や社会観を問い直す。</li> <li>言語・文化背景の異なる者同士が交流・協働活動プロセスを通して、有意義な相互理解を深める。</li> </ol>					
授業内容(Course Contents)					
第1回	イントロダクション、共修の心得				
第2回	異文化コミュニケーション (1) 国際化やグローバル化にともなう課題				
第3回	異文化コミュニケーション (2) コミュニケーションの概念				
第4回	異文化コミュニケーション (3) 異文化適応				
第5回	異文化コミュニケーション (4) ゲストスピーカー				
第6回	異文化コミュニケーション (5) 非言語コミュニケーション				
第7回	プレゼンテーション (1) 課題選定と分析、グループ分け				
第8回	プレゼンテーション (2) 解決先のアイデア出し				
第9回	プレゼンテーション (3) 解決策の具体化				
第10回	プレゼンテーション (4) プレゼン準備・コンサル グループ前半				
第11回	プレゼンテーション (5) プレゼン準備・コンサル グループ後半				
第12回	プレゼンテーション (6) グループ発表 グループ前半				
第13回	プレゼンテーション (7) グループ発表 グループ後半				
第14回	本授業のまとめと理解度の確認 (フィードバック含む)				
履修上の注意 (Prerequisites and Registration Requirements)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は、履修希望者数により履修者の選定を行う可能性があるため、履修を希望する場合、初回授業に必ず参加すること。また、履修決定後の履修削除は認めていない。</li> <li>・授業は日本語で行う。留学生は中級レベル (JLPT N2-N3 レベル、CEFR B1 レベル、留学生共通日本語科目日本語 5 レベル) 以上の日本語力を有することが必要。</li> </ul>					

<b>準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</b>
<p>授業の予習として、毎回事前に配布する講義資料を熟読し、関連ニュース等を調べておくこと。</p> <p>授業では、学生同士の積極的な議論や教員との質疑応答を期待するので、授業で扱う各種テーマに対する自分自身の意見や考えを整理しておくこと。</p> <p>授業の復習として、各回の講義内容や討論をもとにした振り返りのレポート（リアクションペーパー）を毎週作成すること。また、自身のノート等を見返し理解を深めること。</p>
<b>教科書（Textbook）</b>
特に定めない。講師によるプリントや資料を配布予定。
<b>参考書（Reference）</b>
<p>『異文化理解入門』（2025）原沢伊都夫 著（研究社）</p> <p>『異文化理解力』（2015）エリン・メイヤー 著（英治出版）</p> <p>『国際教育で育む異文化感受性 多文化環境での対話的で深い学びのために』（2024）秋庭裕子他編著（学文社）</p>
<b>課題に対するフィードバックの方法（How to provide Feedback to assignments）</b>
毎回のリアクションペーパーにより、学習者の理解度を確認する。Oh-o! Meiji で質問・意見に対するコメント・フィードバックをする。必要に応じて講義の際に全体へのフィードバックを行う。
<b>成績評価の方法（Grading and Evaluation）</b>
参加態度・共同姿勢（20%）、リアクションペーパー（10%）、プレゼンテーション（30%）、期末レポート（40%）
<b>その他（Other）</b>
特になし

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
Meiji Active Global Intercultural Collaborative Learning (MAGIC-L)	1～4年	秋・火・4	2単位	和泉	古内 綾子

#### 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

##### 《概要 (Course Summary)》

テーマ：これからの社会で生きていくために必要なスキルとは何だろう

21世紀に入り、すでに4半世紀が過ぎました。情報技術が発達し、スマホを持ち歩いているのは当たり前。スマホがあれば世界中のニュースをリアルタイムで聞き、どんな言葉も一瞬で理解できる言語に変換でき、どこにいても様々なことが調べられる環境の中で私たちは生きています。社会に目を移せば、機械による大量生産により社会が発展した「工業社会」から、知識や情報が価値を持ち、社会や経済が発展していく「知識情報社会」へと変化しています。みなさんは、このような知識情報社会に生まれ、それぞれの国で様々な教育を受けて、これからの世界に必要な知識・能力を身に着け大学生となりました。では、さらに、これからの社会で活躍していくために大学での学びの中でどのような知識・能力を身につければいいのでしょうか。異なる国、地域出身の多様なクラスメイトとのディスカッションや、多様な場所で働く人へのインタビューを通して、「活躍するために必要なスキル」を考え、それを身に着けるための行動を探してみましょう。

##### 《到達目標 (Course Objectives)》

1. 21世紀の社会で必要だとされる能力・資質に関する知識やクラス活動を通して得た知識をもとに、自分の能力を客観的に振り返り、これから何を身に付けて行くか考え、そのための方法を考えて話すことができる。
2. 適切な情報源を使って集めた情報やインタビューの結果などを、それを知らない人がわかるように工夫して説明することができる。
3. ゲストスピーカーに対して、適切な日本語表現を用いて、疑問点を明確にした質問を行い、知りたいことを聞いて理解することができる。
4. グループでの活動が円滑に進むように、同じメンバーへの配慮を示しながら、協力し、自分の役割に責任をもって取り組むことができる。

#### 授業内容(Course Contents)

##### 《授業の進め方》

- 第1回 イントロダクション、これまでの経験・教育を振り返る、グループ活動について
- 第2回 21世紀の社会で必要とされる能力・資質について (21世紀型スキル、ラーニングコンパス)
- 第3回 各国で必要と言われる社会人の能力調査・準備①
- 第4回 各国で必要と言われる社会人の能力調査・準備②/発表①
- 第5回 各国で必要と言われる社会人の能力調査・発表②・ふり返り
- 第6回 プロジェクトについて発表、グループ作り
- 第7回 ゲストスピーカーへのインタビュー (一人目) ※
- 第8回 ゲストスピーカーへのインタビュー (二人目) ※
- 第9回 インタビュー結果のまとめ
- 第10回 インタビュー結果の発表・ふり返り
- 第11回 プロジェクト活動① (グループ学習) 準備1日目
- 第12回 プロジェクト活動② (グループ学習) 準備2日目 (修正)
- 第13回 発表
- 第14回 まとめとふり返り

- ◆授業の詳しいスケジュールは、第1回目のイントロダクションで説明します。
- ◆この授業では、毎回、グループワーク、グループディスカッションを行います。グループでの学び方や協力的な関わり方もこの科目の学習内容で、目標とする能力・資質の一つです。積極的に取り組んでみましょう。
- ◆グループに分かれて海外で働く（働いていた）日本の方と、日本で働く（働いていた）海外の方へのインタビュー活動があります。インタビューを受けていただく方のスケジュールもあるので、所定の授業時間外の活動にオンラインでインタビューを行うことがあります。（※の活動）

○ゲストスピーカー：海外で働く（働いていた）日本の方（予定）【2025年現在の状況】

- 1) 日系企業勤務（中国駐在：2025年時点）
- 2) 日系企業勤務（日本勤務） ※明治大学出身
- 3) 国際機関勤務（海外駐在）
- 4) 海外の企業勤務（マレーシア駐在） ※明治大学出身

○ゲストスピーカー：日本で働く（働いていた）海外の方（予定）【2025年現在の状況】

- 1) 日本公的機関勤務（日本在住） ※明治大学出身
  - 2) 日系企業勤務（日本在住） ※明治大学出身
- その他2名を予定（調整中）。

なお、ゲストスピーカーの詳細は履修者に「シラバスの補足」で共有します。

- ◆このクラスは、日本語を学習中の学生と日本語母語の学生が混在しています。お互いの話が理解できるように、話し方、聞き方を工夫していきましょう。また、積極的に自分の考えを話していきましょう。

#### 履修上の注意 (Prerequisites and Registration Requirements)

- ・本科目は**抽選対象科目**です。履修を希望する学生は、履修者選考を行うため、必ず初回授業時に出席してください。なお、履修決定後の履修削除は認めていません。
- ・授業は日本語で行います。留学生は中級レベル（JLPTN2-N3 レベル、CEFRB1 レベル、留学生共通日本語科目日本語5 レベル）以上の日本語力が必要です。
- ・授業の中で、学外の方へのインタビュー活動があります。**社会人の方々に依頼するため、所定の授業時間外になる可能性があります。シラバスの補足をよく見て、参加可能な時間か確認して履修を考えてください。**

#### 準備学習（予習・復習等）の内容 (Preparation and Review)

- ・講義で使用する資料を事前に配布しますので、一度目を通してわからない言葉は調べてから来るようにしてください。
- ・グループでのプロジェクト実施中は、グループで決めたスケジュールに沿って、授業時間外の学習を行いましょう。

#### 教科書 (Textbook)

- ・教科書は使用しません。Oh-o!Meiji 等で資料やワークシートを配布します。

#### 参考書 (Reference)

- ・授業時に紹介します。

#### 課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)

- ・Oh-o!Meiji 等を使って、成果物やレポートなどのフィードバックを行います。

#### 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

発表（発表時の成果物）	30%
レポート・リアクションペーパー	30%
グループ活動への貢献度	30%
振り返り	10%

#### その他 (Other)

- ◆授業のスケジュールや内容は、履修学生の人数やインタビュー対象者の状況等から変わることがあります。
- ◆授業に関わる活動や評価対象物について、生成 AI などの利用方法については、授業内の指示に従ってください。

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
Meiji Active Global Intercultural Collaborative Learning (MAGIC-L)	1～4年 1st to 4th	秋・水・5 Fall, Wed, 5	2単位 2 credits	和泉 Izumi	横川 綾子 Ayako Yokogawa

#### 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

##### 《概要 (Course Summary)》

"Bridging Languages: Exploring Multilingual Minds in Context", the subtitle of this class, is an international collaboration course open to Japanese and international students. In this class, students will learn how speaking more than one language can affect their thoughts, communication styles, and cultural views. Through lectures, group discussions, and presentations, students will discover how multilingualism shapes both personal identity and society.

##### 《到達目標 (Course Objectives)》

By the end of this course, students will be able to

- 1) collaborate effectively with peers who speak various first languages.
- 2) understand how the language can influence their thinking and cultural perspectives.
- 3) discuss how multilingualism affects each individual's identity and perspectives.
- 4) explore multilingual minds in group and individual presentations.

#### 授業内容(Course Contents)

Note: The schedule may change based on how many students register for the course.

#### **Week 1: Orientation**

Icebreaker: Get to know each other by sharing language backgrounds.

Orientation: Learn about the topics in the course.

Key Idea: Get introduced to the main concepts of multilingualism.

#### **Week 2: What is Multilingualism?**

Lecture: Discover what it means to speak multiple languages.

Discussion: Share your own experiences of speaking more than one language.

Reading Assignment 1: Read a short article about multilingualism and answer discussion questions.

#### **Week 3: Language Learning and Its Challenges**

Lecture: Understand how people learn languages.

Activity: Share your ideas of Reading Assignment 1 with the class.

Group Work: Start talking about possible topics for your group presentations.

#### **Week 4: Importance of Context in Language Use**

Lecture: Explore how language use changes in different situations.

Activity: Discuss real-life examples of how context affects language.

Group Work: Narrow down your group presentation topics.

#### **Week 5: Guest Speaker Session**

Talk: Listen to a guest speaker's talk about multilingualism.

Q&A: Ask questions and learn from the guest speaker's lived experiences.

Reflective Assignment: Write a 400-word reflection paper on what you learned from the guest speaker.

#### **Week 6: Exploring Language Interaction**

Lecture: Learn how different languages can influence multilingual minds.

Activity: Reflect on your own multilingual experiences.

Group Work: Finalize your group presentation topics and discuss content.

### **Week 7: Preparing for Group Presentations**

Workshop: Learn effective presentation tips.

Group Work: Work on your group presentations.

Consultation: Get suggestions from the instructor.

### **Week 8: Group Presentations**

Presentation: Share your group work with the class.

Feedback: Give and receive peer feedback, and join a class discussion.

### **Week 9: Exploring L1-L2 Interaction**

Lecture: Learn about how first and second languages can interact.

Group Work: Brainstorm ideas for your individual presentation topics.

Reading Assignment 2: Read a short article about multilingualism and answer discussion questions.

### **Week 10: Exploring Multilingual Minds**

Lecture: Understand how multiple languages you speak can shape your thoughts.

Activity: Share your ideas of Reading Assignment 2 with the class.

Group Work: Discuss your individual presentation topics.

### **Week 11: Majority Language and Minority Language**

Lecture: Understand the differences between majority languages and minority languages in a society.

Individual Work: Start outlining the individual presentation.

Group Work: Share your progress on the individual presentation with the class.

### **Week 12: Beyond First and Second languages**

Workshop: Rethink languages in terms of ability, experience, use, and identity.

Group Work: Share the outline of your drafted presentation with peers and receive feedback.

Consultation: Get one-on-one advice from the instructor.

### **Week 13: Individual Presentations (Part 1)**

Presentation: Share your personal views on multilingualism.

Feedback: Receive comments from peers and the instructor.

### **Week 14: Individual Presentations (Part 2) & Course Wrap-up**

Presentation: Continue with remaining individual presentations.

Feedback: Receive comments from peers and the instructor.

Wrap-up: Reflect on your learning and complete a course evaluation.

### **履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)**

#### **Course Registration**

Students wishing to enroll are required to attend the first class. If the number of applicants exceeds the course capacity, enrollment will be determined by the course instructor. Please be noted that this course does not permit withdrawals after enrollment has been finalized.

#### **English Level Requirement**

This course uses clear, simple English. To actively join in class discussions and give presentations, you should have English skills at about TOEFL iBT 61+, IELTS 5.5+, or TOEIC L&R 685.

#### **Attendance Policy**

If you miss three or more classes without a valid, documented reason, you will receive a failing grade.

準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）
<p><b>Preparation</b> Students need to complete the assignments and think about the next class topic in advance to contribute meaningfully to class discussions.</p> <p><b>Review</b> After each class, review the materials and discussions so that you clearly understand the main concepts.</p>
教科書（Textbook）
There is no required textbook. All necessary reading materials will be provided by the instructor as needed.
参考書（Reference）
The instructor will recommend specific references throughout the course. These are not mandatory but can provide additional insights and support your learning.
課題に対するフィードバックの方法（How to provide Feedback to assignments）
Feedback will be provided verbally in class or through comments on the learning management system Oh-o! Meiji. Students can access their feedback and track their progress through the platform.
成績評価の方法（Grading and Evaluation）
<p>Reading assignments: 30%</p> <p>Reflective assignment: 30%</p> <p>Group presentation: 20%</p> <p>Individual presentation: 20%</p>
その他（Other）
This course is designed to provide an international collaborative learning experience. International students interested in engaging with Japanese students are warmly welcome.

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
Meiji Active Global Intercultural Collaborative Learning (MAGIC-L)	1～4年	秋・水・2	2単位	駿河台	黒崎 典子

#### 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

テーマ：多文化理解のための協働プロジェクト

本授業では、受講生自らがお互いの異なる言語や文化背景を理解・受容し、共に内面的成長や新たな価値観を創造することを目指して、多言語・多文化社会への理解を目指すプロジェクト実践を行います。

日本語学習者と日本語母語話者がチームを作り、各国、各地域での違いを文化的及び社会的文脈で捉え直し、異文化への理解を深めるとともに、多文化社会への理解を広げることができるプロジェクトを実施することを目指します。

授業は主に中上級以上の日本語を用いて進められます。

#### 授業内容(Course Contents)

第1回 (9/30)：授業のイントロダクション、アイスブレイキング (1)

第2回 (10/7)：アイスブレイキング (2) (SDGs ダイヤモンドランキング作成)

第3回 (10/14)：「共通言語」について、議論に用いる共通言語としての日本語、日本語のバリエーション

第4回～第8回 (1泊2日・10月17日～10月18日予定)：セミナーハウス合宿

①「異文化理解」「多文化社会」についてのワークショップ

②お互いの「文化」を知るためのグループワーク

③チームビルディング活動

④プロジェクトテーマについての議論 (例：イベント開催 (ワークショップ、発表会、オンライン交流会)、動画作成 (YouTube 等 SNS)、等)

⑤プロジェクト実践の方法

第9回：プロジェクトの準備 (1) 各グループ準備

第10回：プロジェクトの準備 (2) 各グループ調査

第11回：プロジェクトの準備 (3) まとめ

第12回：プロジェクト実践 (1) 前半

第13回：プロジェクト実践 (2) 後半

第14回 (12/2)：プロジェクト報告会 (最終プレゼンテーション)

・12月までに多文化社会の理解を広げるイベント開催、または公への発信等の実践を行います。

・受講生バックグラウンド、受講生数、受講生の日本語力等のバランスにより、日程・内容の調整、変更をすることがあります。

#### 履修上の注意 (Prerequisites and Registration Requirements)

グループワークを含むディスカッションが多い授業となるため、積極的な取り組み及び発言が必要です。異なる背景を持つ受講生が集まる授業ですので、相手に興味を持ち、お互いに理解を深めることを目指しながら参加していただくことを期待します。

受講生は日本語力が中上級以上の留学生と日本語母語話者を予定しています。この授業は主に日本語を用いて進められます。インストラクションは適宜英語も用いますが、基本的に中上級レベルの日本語を使用します。効果的なディスカッションをするために、留学生はより高いレベルの日本語力を身につけることを目指してください。また、日本語母語話者は自らの母語をコントロールして相手が理解できる日本語を使えることを目指してください。

<p>履修登録にあたり、以下の内容を確認・理解の上、登録をしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修を希望する場合、初回授業に必ず参加すること。</li> <li>・履修希望者数により履修者の選定を行う可能性があること。</li> <li>・履修決定後の履修削除は認めていないこと。</li> </ul>
<p><b>準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</b></p>
<p>公開型プロジェクトの実施を目標としているため、授業時間以外にグループでの話し合いや調査、実施準備の時間が必要となります。プロジェクトの遂行を目指し、授業外でのグループ活動にも積極的に取り組むことを期待します。</p>
<p><b>教科書（Textbook）</b></p>
<p>授業時にプリントを配布予定です。</p>
<p><b>参考書（Reference）</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・『国際共修』末松和子他（東信堂）</li> <li>・『真のダイバーシティをめざして—特権に無自覚なマジョリティのための社会的公正教育』グッドマン・ダイアン（上智大学出版会）</li> <li>・『多文化共生論』加賀美常美代編著（明石書店）</li> <li>・『多文化社会の偏見・差別』加賀美常美代他（明石書店）</li> <li>・『改定版多文化共生のコミュニケーション—日本語教育の現場から—』徳井厚子（アルク）</li> <li>・『国際共修授業—多様性を育む大学教育のプラン』青木麻衣子他（明石書店）</li> <li>・『オンライン国際交流と協働学習』村田晶子編著（くろしお出版）など</li> </ul>
<p><b>課題に対するフィードバックの方法（How to provide Feedback to assignments）</b></p>
<p>発表やグループディスカッションに対してはその場でフィードバックを行います。提出課題については授業時の他、Oh-o! Meiji や E メール、グループ内の SNS を使用します。</p>
<p><b>成績評価の方法（Grading and Evaluation）</b></p>
<p>プロジェクト実践 50%、最終プレゼンテーション 5%、最終リフレクションレポート 5%、平常点（授業及び活動貢献度、グループ貢献度、ディスカッション参加度、定期リフレクションレポート）40%により総合的に評価します。</p>
<p><b>その他（Other）</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本授業ではグループのチームビルディング及び集中的な討議のために、大学セミナーハウスでの合宿を一泊二日で行います。宿泊費、食費などで 5000 円程度かかる予定です。</li> </ul>

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
Meiji Active Global Intercultural Collaborative Learning (MAGIC-L)	1～4年 1st to 4th	春・木・2 Spring, Thr, 2	2単位 2 credits	中野 Nakano	ピニロス マツダ, デレク PINILLOS MATSUDA, Derek Kenji

#### 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

《概要 (Course Summary)》

##### Course Theme (Sub-theme)

Soft Skills as Learnable Practices in Multicultural Learning Environments

《到達目標 (Course Objectives)》

By the end of the course, students will be able to:

1. Identify and explain key global soft skills required in intercultural contexts.
2. Analyze intercultural interactions and challenges through critical reflection.
3. Collaborate effectively with students from different cultural and linguistic backgrounds.
4. Articulate their own learning and skill development in English.
5. Design practical solutions to enhance intercultural collaboration in academic settings.

#### 授業内容(Course Contents)

This course is an international collaborative seminar designed for international and Japanese students, particularly those with limited prior experience in intercultural exchange. Through project-based learning (PBL), the course provides students with opportunities to engage in meaningful intercultural collaboration within the classroom.

At the beginning of the course, **students will collectively determine a shared course theme** based on their interests and contemporary issues relevant to Japanese society and global affairs.

Based on this shared theme, students will work in **mixed-nationality groups** to select specific sub-topics and prepare group presentations.

Throughout the course, the instructor will provide **short lectures and guided input sessions** related to the selected theme, offering conceptual frameworks and background knowledge to support students' inquiry and discussion. These mini-lectures are designed to deepen understanding of the theme and to help students connect their group projects to broader intercultural and social contexts.

Through discussion, information sharing, and collaborative inquiry, students will examine their selected topics from multiple cultural and social perspectives, identifying differences in assumptions, values, and problem definitions.

A central focus of the course is the **collaborative process itself**. As students work together, they will reflect on challenges such as miscommunication, silence, disagreement, and uncertainty, and analyze how these experiences relate to the development of global soft skills, including intercultural communication, collaboration, adaptability, empathy, and critical reflection.

The course culminates in a **group presentation**, in which students explain their selected topic, demonstrate how intercultural perspectives shaped their understanding, and present a group-based solution. Through this process, students will gain practical experience in intercultural problem-solving and develop a deeper understanding of the importance of soft skills in addressing complex social and global challenges.

**Week 1** introduces the course objectives, assessment, and overall learning approach. Students engage in ice-breaker activities and intercultural self-introductions, and are introduced to the idea of **soft skills as learnable practices** through a short lecture.

**Week 2** focuses on the early formation of **mixed-nationality groups**. Students begin working together through guided collaborative tasks, while a mini-lecture introduces key concepts related to intercultural communication, collaboration, and empathy.

**Week 3** explores intercultural interaction and miscommunication. Through case studies and discussion, students reflect on silence, misunderstanding, and conflict. A short lecture provides conceptual tools to analyze these experiences.

**Week 4** is devoted to framing a shared course theme. Students collectively discuss and decide on a **common theme** related to Japanese society or global affairs. A mini-lecture introduces the principles of project-based learning and intercultural inquiry.

**Week 5** focuses on perspective-taking in multicultural groups. Each group selects a specific sub-topic related to the shared theme. A short lecture addresses how cultural and social perspectives shape problem framing.

**Week 6** emphasizes collaborative research across cultures. Students begin gathering and sharing information within their groups. The mini-lecture at this stage draws directly on the **student-selected theme**, providing background knowledge and analytical frameworks relevant to that theme.

**Week 7** serves as a midpoint check. Groups give short progress presentations and receive peer and instructor feedback. The mini-lecture focuses on challenges emerging from the ongoing group work.

**Week 8** addresses difficulties in group collaboration, such as unequal participation, disagreement, and silence. The mini-lecture is based on issues identified in students' group experiences and relates these challenges to global soft skills development.

**Week 9** shifts toward designing group-based solutions. Students apply intercultural perspectives to practical problem-solving. The mini-lecture introduces examples and strategies connected to the shared theme.

**Week 10** focuses on communicating ideas effectively in multicultural contexts. Students work on structuring and visualizing their presentations. The mini-lecture addresses presentation strategies relevant to the groups' chosen topics.

**Week 11** is dedicated to group consultation and rehearsal. Students receive detailed feedback on both content and collaborative processes. Short targeted lectures respond to common issues across groups.

**Weeks 12 and 13** are devoted to final group presentations. Students present their selected topics, demonstrate how intercultural perspectives shaped their understanding, and propose group-based solutions. Feedback from peers and the instructor follows each presentation.

**Week 14** concludes the course with reflection and synthesis. Students reflect individually and collectively on their soft skills development and discuss how the learning from the course can be applied to future academic, professional, and intercultural contexts.

#### 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)

Students who wish to enroll **must attend the first class**, as a selection process will be conducted. Please be noted that this course does not permit withdrawals after enrollment has been finalized.

The course is conducted **entirely in English**. Students are expected to have sufficient English proficiency to actively participate in group discussions and presentations

(recommended level: **CEFR B1**<TOEFL iBT 61+, IELTS 5.5+> **or above**).

Active participation in **multicultural group work** is essential. Students are expected to engage respectfully with peers from diverse linguistic and cultural backgrounds.

As this course emphasizes collaborative learning, **regular attendance is required**. Excessive absences may affect the final grade.

#### 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)

##### Preparation (Before Class)

- Read assigned materials or case studies provided via Oh-o! Meiji.
- Prepare short reflections or discussion points related to the weekly topic.
- Coordinate with group members when necessary to prepare for group activities or presentations.

##### Review (After Class)

- Reflect on in-class discussions, especially intercultural interactions and communication challenges.
- Review feedback received from peers and the instructor.

Update individual reflection notes on soft skills development throughout the course.

#### 教科書 (Textbook)

No fixed textbook purchase is required for this course.

The following books will be used as core reference texts, and selected chapters or excerpts will be provided by the instructor as needed. Students are **not required to purchase** these books.

- **Intercultural Communication in Contexts**  
Martin, J. N., & Nakayama, T. K.
- **The SAGE Handbook of Intercultural Competence**  
Deardorff, D. K. (Ed.)
- **Collaborative Learning Techniques**  
Barkley, E. F., Cross, K. P., & Major, C. H.

In addition, each group is expected to read **topic-specific academic articles or reports** related to their selected project theme. Details regarding these additional readings will be provided **during the course**, depending on each group's topic and research focus.

#### 参考書 (Reference)

Additional readings and reference materials will be introduced during the course as needed.

Students are encouraged to explore relevant literature on:

- Intercultural communication
- Global soft skills

Collaborative learning and project-based learning

### 課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)

Feedback will be provided through:

- **In-class verbal feedback** during discussions and presentations
- **Written comments** on submitted assignments via Oh-o! Meiji
- **Peer feedback** activities focusing on communication, collaboration, and clarity of ideas

Emphasis is placed on **formative feedback**, supporting students' ongoing development of intercultural and collaborative skills.

### 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

Class Participation & Engagement	20%
Weekly Reflections / Short Assignments	20%
Group Project (Content & Collaboration Process)	40%
Final Group Presentation	20%

Evaluation focuses on the collaborative process, intercultural engagement, and reflective learning.

### その他 (Other)

- The course schedule and content may be adjusted depending on class size, group dynamics, and student interests.
- Guidelines regarding the use of generative AI tools for assignments will be explained in class.  
In principle, the use of generative AI tools is **permitted** in this course.  
However, students are required to **clearly explain and disclose** how AI tools were used in their work (e.g., for idea generation, language support, summarization, or editing).  
All AI use must comply with the instructor's guidelines and standards of **academic integrity and ethical practice**.

This course aims to create a safe and inclusive learning environment.

Respectful communication and openness to diverse perspectives are expected at all times.

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
Meiji Active Global Intercultural Collaborative Learning (MAGIC-L)	1～4年 1st to 4th	秋・金・3 Fall, Fri 3	2単位 2 credits	駿河台 Surugadai	高馬 京子 Kyoko Koma

#### 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

**Theme:** The Gaps between the Image and Reality of "Japan" Constructed by Media from various countries around the world: Thinking through Pop Culture, Gender, Stereotypes, Media representation and Media literacy as Keywords.

**Course Summary and Objectives:** In today's world of rapidly advancing digital media and AI, people can indirectly experience and learn about various cultures by viewing information trending online (including "fake" content) before actually studying abroad or experiencing a place firsthand. So, how is the 'Japanese' culture that becomes a topic across various international media constructed? Are there differences in perception by country? "Japanese culture" has been formed while incorporating diverse foreign cultures. However, in this era where digital media easily connects the world, how are representations of "Japanese culture" and 'Japan' defined from the diverse perspectives expressed both domestically and internationally? How does this image differ by country and individual, and what characteristics does it possess? Furthermore, how does it diverge from the reality of Japan? This course first focuses on cultural phenomena associated with globally recognized Japanese locations such as "Mount Fuji" and "Shibuya/Harajuku." Through media analysis and fieldwork concerning themes selected by the group, we examine the divergence between media representations and reality across borders and eras. Furthermore, we analyse whether stereotypes categorised by Honore (1994) and employed in French discourse on Japan during the 1980s and 1990s are utilised in different cultural spheres. This will be explored in relation to cultural representations associated with Mount Fuji, Harajuku, and Shibuya. The investigation will also explore whether new stereotypes exist, presenting the findings. Subsequently, the image of "Japan" within various cultural contexts related to pop culture and gender will be analysed from the perspectives of the aforementioned stereotypes, media representations, and media literacy. This will present diverse viewpoints, offering an opportunity to examine the elements shaping contemporary "Japanese" culture constructed within a global context and the media literacy and intercultural understanding required of us.

#### 授業内容(Course Contents)

1. **【Introduction】** Lecture on what is "Japan" culture? what is a stereotype? what is a media representation? Group discussion on what comes to mind when you hear "Japan" and classification of results (September 25th)
2. **【 The Gaps between the Image and Reality of "Mt.Fuji" 】** Discussion about images of Mt.Fuji in media of various countries and era.(October 2nd)
3. **【 The Gaps between the Image and Reality of "Mt.Fuji" 】** Preparing for Fieldwork at Oshino Hakkai by each group(October 9th)
4. **【 The Gaps between the Image and Reality of "Mt.Fuji" 】** Fieldwork at Oshino Hakkai by each group and discussion at Yamanaka seminar House(October 17th)
5. **【 The Gaps between the Image and Reality of "Mt.Fuji" 】** Analysing the gaps between the image and reality of "Mt.Fuji" at Yamanaka Seminar House(October 17th and 18th)
6. **【 The Gaps between the Image and Reality of "Mt.Fuji" 】** Presentation on the gaps between the image and reality of "Mt.Fuji"(October 23th)

7. 【 The Gaps between the Image and Reality of "Harajuku and Shibuya" 】 Discussion about images of Harajuku and Shibuya in media of various countries and era by each group (November 13th)
8. 【 The Gaps between the Image and Reality of "Harajuku and Shibuya" 】 Preparing for Fieldwork at Harajuku and Shibuya by each group (November 20th)
9. 【 The Gaps between the Image and Reality of "Harajuku and Shibuya" 】 Fieldwork at Harajuku and Shibuya by each group (November 27th)
10. 【 The Gaps between the Image and Reality of "Harajuku and Shibuya" 】 Preparing for presentation on the gaps between the image and reality of "Harajuku and Shibuya" (December 4th)
11. 【 The Gaps between the Image and Reality of "Harajuku and Shibuya" 】 Presentation on the gaps between the image and reality of "Harajuku and Shibuya" (December 11th)
12. 【 The Gaps between images of "Japan" in media of various countries and era thought through stereotypes on Japan】 Discussion about images of Japan(December 18th)
13. 【 The Gaps between images of "Japan" in media of various countries and era thought through stereotypes on Japan】 Presentation preparation about stereotypes and the gaps between images of "Japan".(January 8th)
Final Presentation and auto - evaluation.(January 15th)
履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)
Students who wish to enroll <b>must attend the first class</b> , as a selection process will be conducted. Please be noted that this course does not permit withdrawals after enrollment has been finalized. Registration requirements: The purpose of the class is not to improve English skills, but to use English to discuss with multicultural students. Please respect the other person's position in terms of their English level and cultural background. Since you will be doing group activities, act with a sense of responsibility, including attendance. The course schedule and content may be adjusted depending on class size, group dynamics, and student interests.
準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)
Research the assignments that have arisen and prepare for presentations even outside of class.
教科書 (Textbook)
Distribute it in class as necessary.
参考書 (Reference)
Distribute it in class as necessary.
課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)
Feedback will be given each time in class and using the Oh-o! Meiji system.
成績評価の方法 (Grading and Evaluation)
Normal score (evaluated by attending and speaking, participating in discussions, and submitting mini-reports) 40%, presentations 30%, reports 30%

その他 (Other)

・ This course will accept approximately 20 students (10 international students and 10 Japanese students). Should the number of applicants exceed this, initial papers will be submitted and decisions made based on their content.

・ Round coach fare is waived through university funding. Other actual expenses are payable locally by participants (Yamanaka Seminar House accommodation fee (including two meals): ¥3,410 per day). Cancellation fees apply from three days prior (¥2,310).

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
グローバル・ シティズンシップ入門B [M]	1～4年	春・木・4	2単位	その他	三牧 純子
授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)					
<p>「将来、国際的な仕事をしてみたいけれど、自分に何ができるかわからない」「一歩踏み出す勇気が欲しい」。そんな不安を抱えていませんか？</p> <p>この講義は、グローバルな課題の解決に向けて、現場の第一線で様々な立場で活躍するプロフェッショナル達から「グローバル課題」と「キャリア」のリアルを学ぶ実践型講義です。</p> <p>国際協力を題材に多様な価値観を理解しながら、未来のキャリアに必要な視点を身につけます。</p> <p><b>&lt;授業の概要&gt;</b></p> <p>私たちを取り巻くグローバルな社会は、気候変動、貧困等、多様な課題に直面しています。これらの問題を解決するためには、課題を理解し、多様な文化や価値観を持つ人々と協働する力が必要です。</p> <p>この講義では、JICA 職員、NPO スタッフ、社会起業家など、様々な立場からグローバル課題に取り組むプロフェッショナルの方々をお招きします。</p> <p>そして、プロフェッショナル達から①具体的にどのようにグローバル課題に対応しているのか、②グローバルな社会をどう捉えているのか、さらに、③どのようにキャリアを構築してきたのか、について学びます。</p> <p>また、毎回、専門家の講義と Zoom のブレイクアウトルームでの少人数ディスカッションを組み合わせ、実践的な学びを深めます (なお、一部の回については、講師が和泉キャンパスに来校予定であり、対面とオンラインのハイブリッドにより実施予定です)。</p> <p><b>&lt;到達目標&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>グローバル課題の理解</b>：グローバル課題と自分とのつながりを理解する</li> <li>・ <b>スキル習得</b>：対話を通じて新たな視点を得て、協働力を高める</li> <li>・ <b>キャリア</b>：グローバルキャリアのイメージを描き、必要なアクションを明確にする</li> </ul>					
授業内容(Course Contents)					
グローバルな課題について「課題」と「国」から理解します。					
①4/16 対面あり (和泉)	イントロダクション [メディア授業 (リアルタイム型)]			三牧 純子	
②4/23 対面あり (和泉)	【教育】最高の教育を世界の果てまで～テクノロジーで途上国の教育格差に挑む [メディア授業 (リアルタイム型)]			坂井 健氏 (認定 NPO 法人 e-Education)	
③4/30 対面あり (和泉)	【母子保健】母子手帳で母と子の命を守るには [メディア授業 (リアルタイム型)]			萩原 明子氏 (JICA 国際協力専門員)	
④5/7	【農村開発】飢餓と貧困の連鎖を断ち切る [メディア授業 (リアルタイム型)]			川島綾香氏 (認定 NPO 法人 テラ・ルネッサンス アフリカ・ブルンジ事務局長)	
⑤5/14	【平和構築】共に憎しみの連鎖をほどいていく～紛争地の現場から～ [メディア授業 (リアルタイム型)]			高橋みづき氏 (NPO 法人 アクセプト・インターナショナル 海外事業副局長)	
⑥5/21 対面あり (和泉)	【DX】海外協力隊事業とオープンイノベーション [メディア授業 (リアルタイム型)]			黒田 篤槻氏 (JICA ガバナンス部職員)	
⑦5/28	中間レビュー (前半の学びのまとめ) [メディア授業 (リアルタイム型)]			三牧純子	
⑧6/4	【無国籍】世界の無国籍問題の解決に、AI データ事業で挑			河内 将弘氏 (アノテーション	

	む〔メディア授業（リアルタイム型）〕	サポート株式会社代表取締役 /株式会社ボードレス・ジャパン アノサポ事業・事業代表)
⑨6/11	【水】アフリカを安全な水で満たす未来を創る〔メディア授業（リアルタイム型）〕	坪井 彩氏（株式会社 Sunda Technology Global 代表）
⑩6/18 対面あり（和泉）	【スポーツ】ニッポン型野球でアフリカと日本の未来を創る〔メディア授業（リアルタイム型）〕	友成 晋也氏（一般財団法人ア フリカ野球・ソフト振興機構 代表理事）
⑪6/25	【地域】アフリカ・ルワンダとテクノロジー支援〔メディア授業（リアルタイム型）〕	浅沼 琢朗氏（JICA ルワンダ 事務所所員）
⑫7/2	【地域】大洋州サモアから考える豊かさと支援〔メディア授業（リアルタイム型）〕	朝熊 由美子氏（JICA サモア 支所 支所長）
⑬7/9	まとめ①後半の学びのまとめ〔メディア授業（リアルタイム型）〕	三牧 純子
⑭7/16	まとめ②全体振り返り〔メディア授業（リアルタイム型）〕	三牧 純子

#### 履修上の注意（Prerequisites and Registration Requirements）

##### （1）単位：

この授業はメディア授業科目として開講される科目です。

授業は全て講義動画をリアルタイムで配信します。メディア授業科目により修得する単位は、卒業要件として修得すべき単位数のうち 60 単位を超えないものとされており、本科目は 60 単位の制限に含まれます。

##### （2）出席確認方法：

出席は点呼および授業参加レポートで確認します。また、授業中に呼びかけに応じない場合は欠席扱いとすることがあります。

##### （3）受講環境：

①環境：受講にあたっては、受講場所は着席で参加できる場所（講義中に対話を行うため、歩きながらの受講や公共の乗り物での受講は不可）、視聴端末及び通信環境等は各自で準備してください。

②カメラオン：小グループ（3～4 名）での対話の時間は、カメラオンでの参加を求めますので、留意ください。

③Zoom の URL：この授業はリアルタイム配信型であり、受講者は授業開始時刻に Zoom を使って授業に参加してください。Zoom による授業アクセスのためのミーティング ID 及びパスワード、または URL はクラスウェブにある「シラバスの補足」に記載しますので、確認してください。

④一部講義については、ハイブリッド（オンライン及び特定のキャンパスからの配信）を想定しています。

詳細については、講義開始後にお伝えします。（「シラバスの補足」を参照ください）。

##### （4）授業開始以降に変更が生じる場合：

クラスウェブの「シラバスの補足」に記載しますので、確認してください。

#### 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）

事前または事後に講義資料等の確認を課す場合があります。

受講者は各自 Oh-o! Meiji システムからダウンロードしてください。

#### 教科書（Textbook）

特に定めません。

#### 参考書（Reference）

- ・『私たちが国際協力をする理由 人道と国益の向こう側』紀谷昌彦（日本評論社）
- ・『第三世界の農村開発』ロバート・チェンバース（明石書店）

・『国際協力を学ぶ人のために』内海成治・桑名恵・杉田映理（世界思想社）
課題に対するフィードバックの方法（How to provide Feedback to assignments）
リアクションペーパーについて講義の中で全体講評を行います。
成績評価の方法（Grading and Evaluation）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義への参画度 20%</li> <li>・ 毎回の授業参加レポート（350～400字程度）の質的水準 35%</li> <li>・ 中間レポート 20%</li> <li>・ 期末レポート 25%</li> </ul> <p>※対面での試験はありません。</p>
その他（Other）
<p>春学期の「グローバル・シティズンシップ入門 B」でグローバルなマインドセットを身に付けた後、秋学期の「グローバル・シティズンシップ入門 D」の講義で実際にローカルレベルでのアクションへと繋ぐ学習デザインになっています（春学期の「グローバル・シティズンシップ入門 B」のみの受講も可能）。</p> <p>「開発の課題」は開発途上国だけに存在するものではありません。日本は課題先進国と呼ばれており、少子高齢化を背景に日本も様々な課題を抱えています。</p> <p>「つながり」から社会の課題を考えるとともに、解決のための実践力（スキル）を身につける方法について、以下の講義で取り上げる予定です。社会の課題の解決に関心がある方に、受講を勧めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開講時期：秋学期の木曜（4限）</li> <li>・ 講義タイトル：グローバル人材育成プログラム科目「グローバル・シティズンシップ入門D」（旧名称 ソリューション・アプローチ（国際システム））」</li> </ul> <p>問合せ：</p> <p>授業に関する質問や意見、相談等がある場合は講義の担当者にメールで相談してください。</p> <p>（国際連携機構特任准教授 三牧 mimaki@meiji.ac.jp）</p>

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
グローバル・シティズンシップ入門C [M]	1～4年	秋・月・4	2単位	その他	水谷 尚子

#### 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

《概要 (Course Summary)》《到達目標 (Course Objectives)》

テーマ「政治と人の移動と、『移動者』がもたらした音楽を考察する ～旧ソ連と中国を中心に」

\*ここで扱う「人の移動」とは旅行や休暇を指すのではなく、政治や経済的要因での移動～戦争・難民・亡命・移民・出稼ぎ・移住～を指します。

20世紀の旧ソ連邦や中華圏（中華人民共和国、中華民国、台湾、香港）に於いては、何らかの原因で故郷を離れて生活せざるを得なくなった人々が大勢います。そうした「移動者」から現れたミュージシャンが、定住地で奏でた歌や音楽が新天地社会にどのような影響を与えたのか、その事例を掘り起こし、検証していきます。とりあげる人々の移動原因は様々です。本人ではなく、親や祖父母の代の移住者もいます。たとえ本人にとって意に沿わぬ移動を余儀なくされ、異境の地に住まうことになっても、人は自らのアイデンティティはそう簡単には捨てられません。共存と主張、反発と和解を、音楽を通じて彼らがどう表現したかを検証し、その作業を通じて、歴史的背景や政治的問題への理解にもつなげていきます。さらに、それらの国や地域、社会・文化的な背景についても考察し、文化や芸術は、ときに社会に大きな影響を与える存在となりうることを再確認していきたいと思えます。

#### 授業内容(Course Contents)

\*すべての授業が「メディア授業 (リアルタイム配信型)」となります。

第1回 「政治と人の移動と、『移動者』がもたらした音楽を考察する ～旧ソ連と中国を中心に」 講座概説

第2回 ソ連の高麗人ロックシンガー、ヴィクトル・ツォイとソ連邦の朝鮮人～体制を揺るがしたミュージシャン

第3回 マガダンのグラーク(強制収容所)とワジム・コージン(シンガーソングライター)～ソ連に於ける LGBT

第4回 ジョージア&アルメニア系ブラート・オクジャワと吟遊詩人運動

第5回 ウクライナの作曲家たち～ユダヤ系ガムザートフと、学生ミュージシャン:イヴァシュークを対比させて

第6回 日本人カルテット・ロイヤルナイツとソ連邦

第7回 白系ロシア人と満洲、上海～ヴェルチンスキー、シャリヤーピン、ルンドストレム

第8回 中央アジア、コーカサス、バルト三国に縁あるミュージシャンたち

- ・カザフスタンのウイグル人歌手ムラット・ナスイロフと中央アジアのウイグル人社会
- ・ドイツ系アンナ・ゲルマンと中央アジア
- ・アゼルバイジャンのソ連国民的歌手ムスリム・マガマエフ
- ・ラトビアのライモンズ・パウルスら

第9回 特別講義「ウイグル人の移動とその音楽の変遷・鷺尾惟子さんに聞く」

第10回 王洛賓が収集した少数民族音楽と、中国共産党プロパガンダ歌謡～中国映画「黄色い大地」を見る

第11回 中華人民共和国 1989年天安門事件の前と後～台湾人歌手侯德健と朝鮮族ロックシンガー崔健

第12回 中華民国(在台湾)の外省人歌手麗君(テレサ・テン)の中華圏への影響

第13回 英国統治期香港の流行歌と中華人民共和国

第14回 さいごのまとめ

<b>履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業用のプリントを、少なくとも1週間前には <b>Oh-o! Meiji</b> のクラスウェブに資料をアップロードしますので、授業前に必ず資料を確認すること。</li> </ul> <p>また、各自出力（もしくはダウンロード）し、当日メモを取れる状態にして授業に臨むこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ディスカッションの時間以外の私語はやめましょう。</li> <li>・授業には時間厳守で集まりましょう。</li> <li>・出席確認方法：<b>Zoom</b> での授業ですので、授業冒頭で口頭確認し、また授業内で発言もしてもらいます。</li> <li>・学生と教員、あるいは学生同士の意見交換方法：授業内でのディスカッションに加えて、<b>Oh-o! Meiji</b> 上のディスカッション欄も利用します。</li> <li>・履修者への連絡窓口：<b>Oh-o! Meiji</b> 上のディスカッション欄とお知らせ機能を使用します。</li> </ul>
<b>準備学習（予習・復習等）の内容 (Preparation and Review)</b>
<p>参考文献一覧から各自の興味関心にあわせて、論文や書籍を図書館からとりよせ、こまめに読むことを推奨します。また、授業で扱う歌謡もリンク先を提示するので、授業後も聞いてみてください。</p>
<b>教科書 (Textbook)</b>
なし。毎回プリントを配布します。
<b>参考書 (Reference)</b>
なし。毎回参考文献一覧を配布します。
<b>課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)</b>
<b>Oh-o! Meiji</b> 上にフィードバック用のコーナーを作成します。
<b>成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面での試験はありませんが、最終日に簡単なウェブ試験（授業に参加していたら点数はとれる）を行います。その際には必ず不正がないかを確認できるように、カメラをオンにしてもらいますので、それができる環境にしてください。さらに、フィードバックコメントもあわせて、成績を付ける予定です。なお、AI に全面的に書かせた文面であると判明した場合は、一発不合格となりますので注意してください。</li> <li>・ディスカッションにも積極的に参加することを求めます。</li> </ul>
<b>その他 (Other)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業は全面的に「メディア授業科目」として、開講されます。メディア授業科目は、「卒業要件として修得すべき単位数のうち、60 単位を超えないもの」と規定されているので注意してください。本科目もその 60 単位の制限に含まれます。</li> <li>・このオンライン授業を受講するにあたっては、視聴端末及び通信環境等は各自で準備してください。受講場所は問いませんが、必ずマイクをオンにして発言ができる場所にいること。</li> <li>・参加人数や希望がある場合に限りませんが、授業参加者が集まれる時間を設けることもできます。</li> </ul>

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
グローバル・ シティズンシップ入門D [M]	1～4年	秋・木・4	2単位	その他	三牧 純子

#### 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

私達の社会は、様々な課題に溢れています。社会課題に関心があるものの、「具体的にどのような解決策があるのだろうか?」「自分にできることがあるのだろうか?」と考えている方も多いのではないのでしょうか。

この講義では、日本の社会課題を「つながり」の視点から捉え、課題解決にクリエイティブに取り組むプロフェッショナル(社会起業家や実践者等)から対応策を学び、実際に身近な課題の解決に取り組む実践型科目です。

多様な社会課題の事例の学習を通じて、社会の課題の解決に挑む力(スキル)を育成します。

#### <授業の概要 (Course Summary) >

2015年の国連によるSDGs採択以降、持続可能な社会の構築が世界的課題となっています。日本は「課題先進国」と呼ばれ、少子高齢化、孤立問題、都市と地域の格差など、先行的で複雑な課題に直面しています。このため、こうした状況に対し、人・組織・地域をつなぐアプローチによって、解決策を探る視点を身につけることが重要になっています。

このような問題意識から、この講義では、国内の多様な社会課題の最前線で取り組む各分野のプロフェッショナル(社会起業家や実践者等)の講義と対話を通じて、①社会課題と私たちのつながり、②解決に向けた視点と発想、③実践上の工夫等を学びます。

講義終盤では、これまでの学びを受講者自身の価値観と重ね合わせ、関心のある社会課題に対して「自分ならではの解決策」を仲間のフィードバックを活かして形にします。このプロセスを通じて、社会を変えるための実践力を養います。(なお、一部の回については、講師が和泉キャンパスに来校予定であり、対面とオンラインのハイブリッドにより実施予定です)。

#### <到達目標 (Course Objectives) >

- ・身近な課題との関わり：社会課題と自身とのつながりに気づく
- ・解決のための視点と発想：課題解決に必要な視点と発想を理解する
- ・実践スキル：持続可能な社会の構築に向けた実践力を身につける

#### 授業内容(Course Contents)

①9/24 対面あり(和泉)	イントロダクション(つながりから考える社会の課題) 〔メディア授業(リアルタイム型)〕	三牧純子
-------------------	--	------

#### <視点をひらく>

②10/1	共感から始めるイノベーション〔メディア授業(リアルタイム型)〕	鵜尾 雅隆氏(認定特定非営利活動法人日本ファンディング協会代表理事)
③10/8	「望まない孤独」のない社会を創る〔メディア授業(リアルタイム型)〕	大空 幸空氏(衆議院議員、「あなたの居場所」元理事長)

#### <ケースからまなぶ>

④10/15	【環境】地域の資源を活かしたサステナブルなまちづくり(徳島県上勝町の事例)〔メディア授業(リアルタイム型)〕	野々山 聡(合同会社パンゲア最高経営責任者)
⑤10/22 対面あり(和泉)	【格差】社会経済的に困難な子ども達と選択肢をつなげる〔メディア授業(リアルタイム型)〕	栗野 泰成氏(一般社団法人チョイふる代表理事)
⑥11/5	【不登校】オーダーメイド授業で、不登校の子供たちの未来と世界をつなぐ〔メディア授業(リアルタイム型)〕	辻田 寛明氏(ワオフル株式会社代表取締役/ボードレスジャパン株式会

		社ワオフル事業 事業代表)
⑦11/12 対面あり (和泉)	【障がい】分身ロボットで全ての人につながるという選択肢を〔メディア授業 (リアルタイム型)〕	杜多 啓佑氏 (株式会社オリイ研究所事業開発)
⑧11/19 対面あり (和泉)	【耕作放棄】耕作放棄地がつなぐ、次世代へのバトン(神奈川県秦野市の事例)〔メディア授業(リアルタイム型)〕	白井 寛人氏 (株式会社ファウナバランス 代表取締役)
⑨11/26 対面あり (和泉)	【環境】次世代へつなぐ環境に配慮したホテル経営 (ホテルニューオータニ)〔メディア授業(リアルタイム型)〕	片岡 慎一郎 (株式会社ニュー・オータニマネージメントサービス課 課長)
⑩12/3	【多文化共生】地域から多文化共生社会のつながりを創る〔メディア授業 (リアルタイム型)〕	神田 すみれ氏 (多文化ソーシャルワーカー、愛知県立大学人間発達学 研究科客員共同研究員・NPO 法人地域と協同の研究センター研究員)

### <解決策をさぐる>

⑪12/10 対面あり (和泉)	自分の「価値観」と出逢う〔メディア授業 (リアルタイム型)〕	フィッシュ明子氏 (社会福祉士)
⑫12/17	実験コミュニティから考えるつながりと未来 (広島県大崎下島の事例)〔メディア授業 (リアルタイム型)〕	更科 安春氏 (一般社団法人まめな Founder)
⑬1/14	まとめ①学びの共有〔メディア授業 (リアルタイム型)〕	三牧純子
⑭1/21	まとめ② 全体総括〔メディア授業 (リアルタイム型)〕	三牧純子

※外部講師の事例紹介をもとに、Zoom のブレイクアウトルーム機能を使って、参加者間の対話を 4 名程度の小グループで複数回行います。対話の時間中は全参加者がカメラオンでの参加をお願いします。

### 履修上の注意 (Prerequisites and Registration Requirements)

#### (1) 単位 :

この授業はメディア授業科目として開講される科目です。

授業は全て講義動画をリアルタイムで配信します。メディア授業科目により修得する単位は、卒業要件として修得すべき単位数のうち 60 単位を超えないものとされており、本科目は 60 単位の制限に含まれます。

#### (2) 出席確認方法 :

出席は点呼および授業参加レポートの内容で確認します。

また、授業中に呼びかけに応じない場合は欠席扱いとします。

#### (3) 受講環境 :

①環境 : 受講にあたっては、受講場所は着席で参加できる場所 (講義中に対話を行うため、歩きながらの受講や公共の乗り物での受講は不可)、視聴端末及び通信環境等は各自で準備してください。

②カメラオン : 小グループ (3~4 名) での対話の時間は、カメラオンでの参加を求めますので、留意ください。

③Zoom の URL : この授業はリアルタイム配信型であり、受講者は授業開始時刻に Zoom を使って授業に参加してください。Zoom による授業アクセスのためのミーティング ID 及びパスワード、または URL はクラスウェブにある「シラバスの補足・お知らせ」に記載しますので、確認してください。

④一部講義については、ハイブリッド (オンライン及び特定のキャンパスからの配信) を想定しています。詳細については、講義開始後にお伝えします。(「シラバスの補足・お知らせ」を参照ください)。

#### (4) 授業開始以降に変更が生じる場合 :

クラスウェブにある「シラバスの補足・お知らせ」に記載しますので、確認してください。

### 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)

講義資料等について、事前または講義後に確認をお願いすることがあります。

受講者は、各自 Oh-o! Meiji システムからダウンロードをして確認してください。
<b>教科書 (Textbook)</b>
特に定めません。
<b>参考書 (Reference)</b>
「みんながんばってるのになんで世の中「問題だらけ」なの? : 知識ゼロからの社会課題入門」、安部敏樹、NewsPicks パブリッシング社
<b>課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)</b>
リアクションペーパーについて講義の中で全体講評を行います。
<b>成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義への参画度 20%</li> <li>・ 毎回の授業参加レポート (350~400 字程度) の質的水準 35%</li> <li>・ 中間レポート 20%</li> <li>・ 期末レポート 25%</li> </ul> <p>※対面での試験はありません。</p>
<b>その他 (Other)</b>
<p>春学期の「グローバル・シティズンシップ入門 B」でグローバルなマインドセットを身に付けた後、秋学期のこの「グローバル・シティズンシップ D」の講義で実際にローカルレベルでのアクションへと繋げることができる学習デザインになっています (春学期に「グローバル・シティズンシップ入門 B」を受講していなくても、本講義の受講は可能です。)</p> <p>「地球規模の社会の課題」とはどのようなものなのか、グローバルな課題に向き合う「プロフェッショナル達の視点やマインド、そしてキャリア」を学ぶ以下の授業の履修を強くおすすめします。</p> <p><b>i) 開講学期・時間割:</b> 春学期・木曜日 4 限</p> <p><b>ii) 授業名:</b> グローバル人材育成プログラム科目 「グローバル・シティズンシップ入門 B」 (旧「グローバル・イシュー各論」)</p> <p><b>iii) 問合せ先:</b> 授業に関する質問・コメント・相談は、担当教員までメールでご連絡ください。 三牧純子明治大学 国際連携機構 准教授 (メールアドレス: mimaki@meiji.ac.jp)</p>

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
留学のスズメ 留学のスズメ [M]	1～4年	春・火・4	2単位	和泉	仲谷 ちはる
授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)					
<p>《概要 (Course Summary)》</p> <p>本講義は、全14回のうちゲスト講師によるオムニバス形式を10回、担当教員による講義を4回行う。</p> <p>ゲスト講師による講義では、国際的に活躍する講演者の講師が海外留学や海外勤務等の経験をもとに、留学の意義や留学が自身の人生にもたらした変化などについて講演し、受講者は講演者の経験した実例をもとに、受講者の留学に対する意識を高めていくことを目的とする。さらに、カルチャーショックや逆カルチャーショックなど、留学体験から派生する課題について議論し、異文化適応能力の意義についても学んでいく。</p> <p>担当教員による講義では、ゲスト講師による講義について振り返り、同じ講義を受けた学生同士がお互いの考えを対話やディスカッション(意見交換)を通して共有し、その相違について自身の考えを深めたり広げたりする。</p> <p>《到達目標 (Course Objectives)》</p> <p>学生は本講義を通じて、海外に目を向け、異なるバックグラウンドを持つ人々との交流や海外生活での学びに強い意欲を持つとともに、海外留学に対する明確な目的や目標を持つことの重要性を認識し、短期留学や長期留学等の海外留学に挑戦する人材として必要になる素養を身に付けることを到達目標とする。</p>					
授業内容(Course Contents)					
1.	4/14	イントロダクション 海外留学の意義	仲谷 ちはる (明治大学国際連携機構特任講師)		
2.	4/21	海外で住むということ、コミュニティの中の共有	ホア 紀子 (アデレード日本語補習授業校教員兼 Educator, Mt Barker Waldorf School Kindergarten)		
3.	4/28	English Study Methods to Prepare for Your Study Abroad～留学のための英語勉強法	安河内 哲也 (東進ハイスクール英語講師兼一般財団法人実用英語推進機構代表理事)		
4.	5/12	南太平洋ツバルの暮らし ～文化人類学的思考のスズメ [メディア授業 (オンデマンド型)]	橘 広司 (金城学院大学教授)		
5.	5/19	第2～4回振り返り及び海外留学の方法と選び方について	仲谷 ちはる		
6.	5/26	海外留学を通して、プロフェッショナルマインドが育つだけでなく、新しい視点で自分と自分の文化を深く知るきっかけとなる!	オースティン・オーガー (APTIM 代表取締役)		
7.	6/2	海外留学がもたらす人生への影響 ～異文化での学び	中村 八千代 (特定非営利活動法人ユニカセ・ジャパン理事長)		
8.	6/9	「自文化」理解の重要性 [メディア授業 (オンデマンド型)]	藤吉 大介 (東京都立産業技術高等専門学校准教授)		
9.	6/16	海外留学における学びのプロセスと成果 ～なぜ留学を通して人は成長するのか? [メディア授業 (リアルタイム配信型)]	高城 宏行 (玉川大学教授)		
10.	6/23	第6～9回振り返り及び海外留学における安全対策と危機管理について	仲谷 ちはる		
11.	6/30	「ありがとう」を言わない人々との出会い ～人生を変えたオーストラリア先住民との生活	拝田 清 (和洋女子大学教授)		

12.	7/7	留学のための異文化理解 ～違いを認め、尊重し合う社会を目指して	吉野 康子（東京家政大学特任准教授）
13.	7/14	世界の日本語教育の概況とことばを学ぶ意義	二瓶 知子（明治大学文学部兼任講師）
14.	7/21	第 11～13 回振り返り及びまとめ	仲谷 ちはる
<b>履修上の注意（Prerequisites and registration requirements）</b>			
<p>毎回の講義出席の確認方法は、初回の授業で説明する。</p> <p>また、授業中はディスカッションを通じて意見交換するが、授業時間外は Oh-o! Meiji やメールなどで意見交換や情報提供を行う。</p> <p><b>原則、和泉キャンパスでの対面受講とする。</b> 所属キャンパスが和泉以外である等のやむを得ない事情の場合は、オンライン受講も認める。この科目はメディア授業併設科目として開講される。以下のいずれかの方法で履修登録を行うこと。学期途中での変更（対面からオンラインまたはオンラインから対面）は、いずれも認めない。以下は履修上の注意。</p> <p><b>【対面での受講を希望する場合】</b></p> <p>和泉キャンパス開講の講義を履修登録し、指定の教室で授業に参加すること。</p> <p>ただし、第 4 回・第 8 回はメディア授業（オンデマンド型）、第 9 回はメディア授業（リアルタイム配信型）で実施する。</p> <p><b>【オンラインでの受講を希望する場合】</b></p> <p>メディア授業科目として開講される講義を履修登録すること。</p> <p>第 4 回・第 8 回を除くすべての授業回を、メディア授業（リアルタイム型）で実施する。</p> <p>受講場所を問わないが、<b>視聴端末及び安定した通信環境等を各自で準備すること。</b> なお、メディア授業科目により修得する単位は、卒業要件として修得すべき単位数のうち、60 単位を超えないものとされており、本科目は 60 単位の制限に含まれる。</p> <p>ペアワーク・グループワークでのディスカッションや発表を行う場合には、原則、Zoom のカメラをオンにすること。</p>			
<b>準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</b>			
<p>授業の予習として、毎回事前に配布する講義資料を熟読し、関連ニュース等を調べておくこと。</p> <p>授業では、学生同士の積極的な議論や教員との質疑応答を期待するので、授業で扱う各種テーマに対する自身の意見や考えを整理しておくこと。</p> <p>授業の復習として、各回の講義内容や討論をもとにした振り返りのレポート（リアクションペーパー）を毎週作成すること。また、自身のノート等を見返し理解を深めること。</p>			
<b>教科書（Textbook）</b>			
特に定めないが、参考書を読むことを推奨する。			
<b>参考書（Reference）</b>			
<p>Benson, P., Barkhuizen, G. Bodycott, P., &amp; Brown, J. (2013). <i>Second Language Identity in Narrative of Study Abroad</i>. Springer.</p> <p>『日本人が世界に誇れる 33 のこと』（2012）ジャーマン・ルース・マリー 著（あさ出版）</p> <p>『信じる！伝える！実現する！』（2015）齋藤佳子 著（宝島社）</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』（2015）ジャーマン・ルース・マリー 著（あさ出版）</p> <p>『異文化理解力』（2015）エリン・メイヤー 著（英治出版）</p> <p>『日本人がいつまでも誇りにしたい 39 のこと』（2018）ジャーマン・ルース・マリー 著（あさ出版）</p>			

### 課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)

毎回のリアクションペーパーの講評は、ゲスト講師へ共有し、フィードバックコメントが届き次第、Oh-o! Meiji より公開・通知する。最終講義日に期末レポートについて説明し、個別の講評は Oh-o! Meiji より公開・通知する。

### 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

以下の諸点により、最終評価を行う。

(1) 授業における貢献度：30%

※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。

(2) リアクションペーパー：30%

※授業内容や討論をもとにした振り返りのレポートを毎週作成すること。

(3) 期末レポート：40%

※本講座で学んだことをもとに、レポートをまとめること。

※対面式での試験は行わない。

### その他 (Other)

教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。

本講座とあわせて、「日本社会・文化理解講座」(秋学期 火曜日 4限)を履修することを強く勧める。

他人のレポートやオンライン上の情報をそのままコピーして提出しないこと。また、病気やその他のやむを得ない事由により、授業当日に課題の提出ができない場合、事前に受け付ける。

外部講師により、対面型ではなく、オンデマンド型やリアルタイム型で動画配信を行う授業日については、受講方法を別途 Oh-o! Meiji にてお知らせを配信する。

明治大学(国際教育センター)が企画する海外留学に関するイベント ([https://www.meiji.ac.jp/cip/event\\_schedule/event\\_schedule.html](https://www.meiji.ac.jp/cip/event_schedule/event_schedule.html)) や、留学のための各種相談 (<https://www.meiji.ac.jp/cip/preparation/counseling/counseling.html>) の利用を強く勧める。また、学内外の国際交流や留学に関する情報収集を積極的に行うこと。

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
アカデミック英語集中講座 (留学前) Intensive Academic English Course (Pre-Study Abroad)	1～4年 1st to 4th	春学期集中 Spring Semester Intensive Classes	1単位 1 credit	和泉 Izumi	横川 綾子 Ayako Yokogawa

#### 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

##### Course Summary

In this course, students will learn how to build strong academic English skills for studying abroad experiences by learning effective strategies to attend classes and gain a deeper understanding of Japanese culture and society from an international point of view.

##### Course Objectives

By the end of this course, students will be able to:

- 1) understand effective strategies for studying abroad.
- 2) participate confidently in academic discussions.
- 3) deliver a well-organized presentation in English.
- 4) recognize key cultural and social issues in Japan.
- 5) write a well-structured academic essay.

#### 授業内容(Course Contents)

Note: The schedule may change based on how many students join and their English proficiency levels.

##### Session 1: Study Tips (4/15, Wed., Period 4)

Lecture: Learn about what is expected in classes at English-speaking universities.

Discussion: Talk about possible challenges in overseas academic settings.

Activity: Create a personal study plan with effective study methods.

##### Session 2: Group Discussion (4/15, Wed., Period 5)

Lecture: Discover strategies for taking part in academic debates, asking questions, and responding to others.

Activity: Practice group discussions about controversial topics, using the techniques from the lecture.

Assignment 1: Write a 200-word reflection on the strategies you used in the group discussions.

##### Session 3: Presentation (4/22, Wed., Period 4)

Lecture: Learn how to structure a presentation, using effective delivery techniques.

Activity: Give a 3-minute presentation about any topic of your choice.

Discussion: Reflect on your 3-minute presentation.

##### Session 4: Social Issues in Japan (4/22, Wed., Period 5)

Lecture: Explore key issues in modern Japan (e.g., work culture, gender roles).

Activity: Discuss how these issues are seen inside and outside of Japan.

Assignment 2: Write a 400-word summary of one social issue in Japan.

##### Session 5: Personal Communication (4/29, Wed., Period 4)

Lecture: Understand how to communicate effectively with others.

Activity: Take part in a simulated communication.

Discussion: Reflect on your simulated personal communication.

##### Session 6: Cultural Topics in Japan (4/29, Wed., Period 5)

<p>Lecture: Learn effective ways to clearly explain cultural topics.</p> <p>Activity: Practice explaining a Japanese cultural topic in your own words.</p> <p>Assignment 3: Make a 1-minute video presentation about one Japanese cultural topic.</p> <p><b>Session 7: Academic Essay (5/13, Wed., Period 4)</b></p> <p>Lecture: Discover key strategies for writing persuasive academic essays.</p> <p>Activity: Examine sample essays to understand what makes them strong or weak.</p> <p>Short essay: Write an 800-word short academic essay on a topic of your choice.</p>
履修上の注意 (Prerequisites and Registration Requirements)
<p><b>English Proficiency Level Requirement</b></p> <p>This course uses clear, simple English. To actively join in class discussions and give presentations, you should have English skills at about TOEFL iBT 61+, IELTS 5.5+, or TOEIC L&amp;R 685.</p> <p><b>Attendance Policy</b></p> <p>If you miss two or more sessions without a valid, documented reason, you will receive a failing grade.</p>
準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)
<p><b>Preparation</b></p> <p>Please finish your assignments and think about the main ideas we cover in each session.</p> <p><b>Review</b></p> <p>After each session, look over the materials and discussions again to strengthen your understanding. Try to use what you learn in your assignments, presentations, and essays.</p>
教科書 (Textbook)
There is no required textbook. All necessary reading materials will be provided by the instructor as needed.
参考書 (Reference)
The instructor will recommend specific references throughout the course. These are not mandatory but can provide additional insights and support your learning.
課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)
Feedback will be provided verbally in class or through comments on the learning management system Oh-o! Meiji. Students can access their feedback and track their progress through the platform.
成績評価の方法 (Grading and Evaluation)
<p>Contribution to class: 10%</p> <p>Assignments: 60%</p> <p>Short Essay: 30%</p>
その他 (Other)
<p>This course is designed for <u>students who have been accepted for mid- to long-term study abroad in English-speaking countries</u> and aims to enhance the English proficiency necessary for academic study. Therefore, <u>it is not intended for students without a plan for study abroad, wishing to improve their general English proficiency (e.g., business English).</u></p>

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
海外テーマ特化型研修 海外語学研修（全言語） 海外実習	1～4年	夏季・春季 （集中）	2単位	その他	国際教育 センター長
授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）					
<p>《概要（Course Summary）》</p> <p>明治大学国際教育センターが実施ならびに選定する海外大学等での専門科目や文化講座、語学研修またはキャリア研修等の実習プログラムに参加し、派遣先の社会状況における現状および異文化理解の基礎を学ぶとともに実践的な外国語コミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>《到達目標（Course Objectives）》</p> <p>グローバル化が進展する中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。本講座は、海外大学等での集中講座・研修、実習活動を通じて、より高度な外国語運用能力、異文化対応能力、問題発見・解決能力等を養うことを主たる目標とする。</p>					
授業内容(Course Contents)					
<p>夏季及び春季休暇を利用した海外大学等（海外大学が実施する国内講座等含む）における文化講座、語学研修または海外キャリア実習等を行う。プログラムによって、フィールドワークや文化交流活動等の課外活動に参加する機会もある。</p> <p>明治大学国際教育センター主催短期海外研修プログラムの詳細については、以下のサイトを確認すること。 プログラムの詳細：<a href="https://meijinow.jp/global">https://meijinow.jp/global</a></p> <p>※本学ホームページ：メニュー＞「国際連携・留学」＞「海外留学を希望する方へ」＞「海外留学プログラム」＞「短期留学プログラム（グループ・個人）」＞「Meiji Now Global」</p>					
履修上の注意（Prerequisites and registration requirements）					
<p>対象プログラムには「グループ渡航型」と「個人渡航型」の2種類がある。</p> <p>(1) 「グループ渡航型」とは、明治大学の学生がグループで渡航するプログラム。留学先への往路・復路ともに定められた期日に出発・帰国するため、集団行動が求められる。集団行動による安心感があり、初めて海外留学に挑戦する学生には、グループ渡航型への参加を推奨する。</p> <p>(2) 「個人渡航型」とは、明治大学の学生以外も応募可能なプログラムに、個人で応募し参加するプログラム。留学先への往路・復路は参加者の希望により、長期休暇の範囲内で各自が手配できる。自由度はあるが主体性・計画性を問われるため、海外留学や海外旅行に慣れている学生の参加を推奨する。</p> <p>(3) プログラムの所定の事前学習を必ず受講すること。</p> <p>(4) 単位認定（履修）に関する詳細は、参加者対象のオリエンテーションにて説明する。 ・過去に単位認定希望科目を修得している等により、単位認定が認められないことがある。 ・夏季プログラムは9月卒業の学部生、春季プログラムは3月卒業の学部生への単位認定は行わない。</p> <p>(5) 参加費用については、プログラム実施機関に確認すること（上記サイト参照）。</p>					
準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）					
プログラムの所定の事前学習・事後学習で参加決定者へ指示する。また、派遣先の歴史、文化、政治、経済等について渡航前に調べ、理解を深めておくこと。					
教科書（Textbook）					
特に定めない。					

<b>参考書 (Reference)</b>
<p>『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著 (角川マガジズ)</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著 (あさ出版)</p> <p>『英語で説明する日本の文化—これ一冊で!日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著 (語研)</p> <p>『日本のことを1分間英語で話してみる』広瀬直子 著 (KADOKAWA)</p> <p>その他の参考図書等については、以下のサイトを確認すること。</p> <p><a href="https://www.meiji.ac.jp/cip/preparation/eng_programmes/referencebooks.html">https://www.meiji.ac.jp/cip/preparation/eng_programmes/referencebooks.html</a></p> <p>※本学ホームページ:メニュー&gt;「国際連携・留学」&gt;「海外留学を希望する方へ」&gt;「海外留学プレ・ポスト英語プログラム」&gt;「学習に役立つリンク集・参考図書」</p>
<b>課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)</b>
<p>派遣先からの提出書類、留学報告書などに基づき、必要に応じて実施する。</p>
<b>成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</b>
<p>以下の諸点により、総合評価を行う。</p> <p>(1) 事前学習 (10%)</p> <p>※出発前に指定のオンデマンド講義を視聴し、指定期間内に課題を提出する。</p> <p>(2) 派遣先からの評価 (70%)</p> <p>※正当な事情により時間数を満たせずに修了証が提出できない場合は、その他に積極的に研修に参加した証拠の提出を求める。</p> <p>(3) 事後学習 (20%)</p> <p>※帰国後、指定期間内に課題を提出する。</p>
<b>その他 (Other)</b>
<p>特になし。</p>

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
長期海外実習	1～4年	秋・その他	8単位	その他	三牧 純子
授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)					
<p>《概要 (Course Summary)》</p> <p>本講座は、海外実務研修を体験する「短期海外実習」、「海外実習」の継続・発展型として実施される、海外でのより長期の実践的学習（実務実習）を行う講座である。</p> <p>参加学生は、世界の平和と開発を支援するための国際機関である「国連ボランティア計画（UNV: United Nations Volunteers）」を通じて、開発途上国における同機関事務所で実務実習を行うことにより、国際協力や開発の基礎知識や異文化に対する理解力・適応力を養うことを主たる目的とする。</p> <p>なお、本講座の学習効果を高めるために、派遣前研修や派遣期間中の実務教育を行う「海外実習課題研究」を同時に履修することを履修条件とする。</p> <p>《到達目標 (Course Objectives)》</p> <p>参加学生は、開発途上国での様々な課題を改善するための多様なボランティア活動に従事する。この活動を通じて、国際開発の基礎知識や異文化に対する理解力、さらに、業務遂行に必要な外国語コミュニケーション力や課題解決力などのグローバル人材として必要な素養を養うことを目指す。</p>					
授業内容(Course Contents)					
<p>国連ボランティア計画（UNV）のコーディネートにより、約5ヵ月間、主に開発途上国の国連諸機関に派遣される。派遣先国はアジア、アフリカ、欧州、大洋州の各国いずれか。</p> <p>具体的には、開発途上国の国連事務所、政府機関またはNGOなどが実習先となる。ウェブサイトやポスター作成などの広報活動やプロジェクト運営支援などを通じて、教育、保健衛生、環境、ジェンダー、貧困削減などの活動に携わる。1日の勤務時間は、週5日の約6時間程度（週30時間程度）。現地での滞在先は、原則として、UNVの各現地オフィスが指定（推奨）する民間アパートである。</p>					
履修上の注意 (Prerequisites and Registration Requirements)					
<p>(1) 受講対象</p> <p>国連ユースボランティアの選考を通過した学生のみ。</p> <p>(2) 履修要件</p> <p>本学の外国留学に関する広報活動及び本プログラムに係る各種調査等の協力を卒業後も含めて協力の同意ができること。</p> <p>なお、「海外実習課題研究（国連ユースボランティア・プログラム）」との同時履修となる。</p> <p>(3) 費用</p> <p>渡航費や一定の現地生活費等を含む参加費用は、明治大学からUNVを通じて支給される。</p> <p>国内研修に係る費用、海外旅行保険、予防接種および出入国のために必要な費用等は自己負担となる。</p> <p>(4) 派遣日程</p> <p>2026年9月中旬～2027年2月（渡航日及び帰国日は、派遣国により異なる。）</p> <p>プログラムの詳細については、<a href="https://www.meiji.ac.jp/cip/chouki_kaigaijishshu/">https://www.meiji.ac.jp/cip/chouki_kaigaijishshu/</a>を必ず確認すること。</p>					
準備学習（予習・復習等）の内容 (Preparation and Review)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・＜派遣が決定次第＞</li> <li>まず派遣機関や派遣国について自身で調べること。</li> <li>・＜研修中＞</li> <li>毎週業務報告書を作成・提出する。そして担当教員からのフィードバックを踏まえ、自身の活動を継続的に改善してゆくことが求められる。</li> </ul>					

教科書 (Textbook)
特に定めない。
参考書 (Reference)
特に定めない。
課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)
個別にフィードバックを行う。
成績評価の方法 (Grading and Evaluation)
以下の諸点により、最終評価する。 (1) 業務報告書 (Weekly Report) の評価 : 50% (2) 最終レポート及びプレゼンテーション : 50%
その他 (Other)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣国 :  治安が比較的良く政情も安定しており、国連職員が単身赴任ではなく家族と共に転勤が可能な地域と指定している。  ただし、外務省海外派遣安全情報の危険情報レベルにおいて、派遣国の危険レベルが「レベル 1」以下でなければ、原則、派遣は行わない。また、同レベルが「レベル 2」に上がった場合には、原則、帰国となる。</li> <li>・語学やスキル :  各派遣先で必要とされる語学や ICT スキルなども必要に応じて習得すること。</li> </ul>

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
海外実習課題研究	1～4年	秋・その他	4単位	その他	三牧 純子

#### 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

##### 《概要 (Course Summary)》

本講座は、国連ユースボランティア・プログラムの派遣前に、長期海外実習に特化した課題研究（渡航前の明治大学での事前学習及び関西学院大学での集合型事前研修）を実施するものである。そして、国連ユースボランティアの参加学生が、活動に必要となるスキルや関連知識の習得を通じて、開発途上国の現場の状況を把握し、柔軟に対応できる能力の育成を目的とする。

また、活動の終了後の事後学習を通じて、現場での経験をレポートに取りまとめるとともに、報告会での口頭発表を行う。これにより、国連ユースボランティアで得られた知見を明治大学の学生に共有し、今後の明治大学のグローバル人材の育成に貢献する。

なお、本講座の学習効果を高めるために、本課題研究の内容に沿った海外での長期の実務実習を行う「長期海外実習」を同時に履修することを履修条件とする。

##### 《到達目標 (Course Objectives)》

国際協力や開発における基礎知識やスキルを身につけるとともに、異文化に対する理解力・適応力の重要性や、多様な価値観を持つ人々との人間関係及びチームワーク構築の重要性、さらに自己の職業観を認識し、日本国内に留まらず、グローバルな舞台で活躍できる素地を醸成する。

#### 授業内容(Course Contents)

##### (1) 事前学習 (100分×全2回)

第1回 (2026年7月中旬実施) は、海外での長期の実務実習に参加するための準備として、現地の文化、滞在方法、プロジェクトの目的や現地活動の概要等について理解する。

第2回 (2026年9月上旬実施) は、日本の援助機関の役割と戦略、担当業務に関する基礎知識、海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを学ぶ。

##### (2) 国連ユースボランティア事前研修 (集合型)

2026年7月下旬～8月上旬、8月下旬～9月上旬に、関西学院大学が東京および兵庫県において実施する合計10日間の研修の講座を他大の国連ユースボランティア派遣学生とともに受講する。

##### (3) 事後学習 (100分×全1回)

本講座の最終総括を行う。課題研究で学んだ理論と5か月間の実践を踏まえ、2026年3月上旬に最終レポートにまとめ、3月に口頭報告する。また、関西学院大学が主催する報告会において、口頭報告を行う。さらに、明治大学および関西学院大学の関連ウェブサイトにおける広報記事作成への協力を行う。

#### 履修上の注意 (Prerequisites and Registration Requirements)

##### 1) 受講定員

選考を通過した学生のみ。

##### (2) 履修要件

「長期海外実習」において実施する長期の海外実習プログラムへの派遣・参加が決定した学生を対象とするため、応募要件や語学レベル等については、「長期海外実習」における基準に準拠する。

なお、「長期海外実習 (国連ユースボランティア・プログラム)」との同時履修となる。

##### (3) 費用

関西学院大学で行われる派遣前研修費として、5万円程度の負担が必要。また、関西学院大学への交通費及び宿泊費等の実費が必要。国連ユースボランティア・プログラムへの参加費用として、予防接種費の実費（派遣国により異なる）、海外旅行保険および出入国のための諸費用等が別途必要となる。

<b>準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</b>
<p>事前に配布する「2026年度派遣の手引き（明治大学）」を読み、不明な部分があれば、授業で質問すること。</p> <p>事前学習及び課題研究の復習として、配布資料や参考書の該当箇所および国連開発計画（UNDP）のHPに目を通すこと。</p>
<b>教科書（Textbook）</b>
関西学院大学指定の教科書
<b>参考書（Reference）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・『国際協力を学ぶ人のために』内海成治・桑名恵・杉田映理（世界思想社）</li> <li>・国連開発計画（UNDP）のHP</li> </ul>
<b>課題に対するフィードバックの方法（How to provide Feedback to assignments）</b>
個別にフィードバックを行う。
<b>成績評価の方法（Grading and Evaluation）</b>
<p>以下の諸点により、最終評価を行う。</p> <p>(1) 事前学習及び事後学習における貢献度：20%</p> <p>    ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) 最終レポートによる評価：80%</p>
<b>その他（Other）</b>
<p>「課題研究」において、以下の点を守ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「国連ユースボランティア」に派遣されるにあたり、全ての講義に出席が必要。やむを得ない事情で授業に参加できない場合は、必ず事前に申し出ること。</li> <li>・講義への遅刻、講義中の居眠りやスマートフォンの私的利用などは厳禁。</li> <li>・発言が求められる場面では、率先して発言するなど積極的に参加をすること。</li> <li>・国際協力事例を通じてサステナブルな開発について学ぶことを目的とする、春学期開講科目「グローバル・シティズンシップ入門B〔M〕」の受講が望ましい。</li> </ul>

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
アカデミック英語集中講座 (留学後) Intensive Academic English Course (Post-Study Abroad)	1～4年 1st to 4th	春学期集中 Spring Semester Intensive Classes	1単位 1 credit	駿河台キャンパス Surugadai	横川 綾子 Ayako Yokogawa

#### 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

##### Course Summary

In this course, students who have completed mid- to long-term study abroad will work on maintaining and improving their English proficiency, while enhancing their ability to explain experiences and expertise.

##### Course Objectives

By the end of this course, students will be able to:

- 1) reflect on their study abroad experiences and identify areas for improvement in their English proficiency.
- 2) enhance their spoken fluency and deliver clear, concise presentations on personal and academic topics.
- 3) explain specialized topics effectively to non-expert audience.
- 4) participate actively in online discussions, demonstrating critical thinking and clear expression.
- 5) synthesize discussions and reflections into a well-structured, persuasive written essay.

#### 授業内容(Course Contents)

Note: This schedule may change based on the number of students and their English proficiency levels.

##### Session 1: Study Abroad Experiences (7/1, Wed., Period 4)

Course Overview: Understand the course objectives, structure, and grading criteria.

Group Discussion: Share your study abroad experiences and discuss challenges in keeping up your English skills.

Activity: Identify key areas for improving your English communication.

##### Session 2: Fluency in Speaking (7/1, Wed., Period 5)

Lecture: Learn techniques to maintain and boost your spoken English fluency.

Activity: Try the 4/3/2 fluency exercise to practice speaking under time pressure.

Presentation: Give a 2-minute talk about a key moment from your study abroad.

Assignment 1: Submit a 200-word reflection on your 2-minute presentation.

##### Session 3: Group Discussion (7/8, Wed., Period 4)

Lecture: Find out best known practices for contributing to group discussions.

Activity: Take part in a simulated discussion on a chosen topic.

Reflection: Reflect on the class discussion and identify room for improvement

##### Session 4: Expertise in English (7/8, Wed., Period 5)

Lecture: Discover how to clearly explain academic topics to diverse audiences.

Activity: Practice explaining your own academic field to a non-expert listener.

Assignment 2: Submit a short video introducing your field of expertise.

##### Session 5: Cultural Awareness (7/15, Wed., Period 4)

Lecture: Explore cultural adaptation and the idea of reverse culture shock.

Activity: Reflect on cultural differences you encountered during or after study abroad.

Short presentation: Talk about your experiences to overcome cultural differences.

**Session 6: Academic Essay (7/15, Wed., Period 5)**

Lecture: Relearn how to transform basic ideas into a short, structured essay.

Activity: Review your previous comment to the discussion and use them to write a short essay.

Assignment 3: Write a 400-word short essay that integrates ideas from the short presentation in class.

**Session 7: Presentation (7/22, Wed., Period 4)**

Individual Presentation: Give a 5-minute talk on a topic, either from the course content or of your choice, using insights from your study abroad experiences, areas of expertise and cultural awareness.

Peer Feedback and Reflection: Exchange constructive feedback on the content and delivery to each other.

**履修上の注意 (Prerequisites and Registration Requirements)****English Proficiency Level Requirement**

This course uses clear, simple English. To actively join in class discussions and give presentations, you should have English skills at about TOEFL iBT 61+, IELTS 5.5+, or TOEIC L&R 685.

**Attendance Policy**

If you miss two or more classes without a valid, documented reason, you will receive a failing grade.

**準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)****Preparation**

Please finish your assignments and think about the main ideas we cover in each session.

**Review**

After each session, look over the materials and discussions again to strengthen your understanding. Try to use what you learn in your assignments, presentations, and essays.

**教科書 (Textbook)**

There is no required textbook. All necessary reading materials will be provided by the instructor as needed.

**参考書 (Reference)**

The instructor will recommend specific references throughout the course. These are not mandatory but can provide additional insights and support your learning.

**課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)**

Feedback will be provided verbally in class or through comments on the learning management system Oh-o! Meiji. Students can access their feedback and track their progress through the platform.

**成績評価の方法 (Grading and Evaluation)**

Contribution to class: 10%

Assignments: 60%

Presentation: 30%

**その他 (Other)**

This course is designed for students who have completed mid- to long-term study abroad in English-speaking countries and aims to enhance their English proficiency. Therefore, it is not intended for students without study abroad experiences, wishing to improve their general English proficiency (e.g., business English).